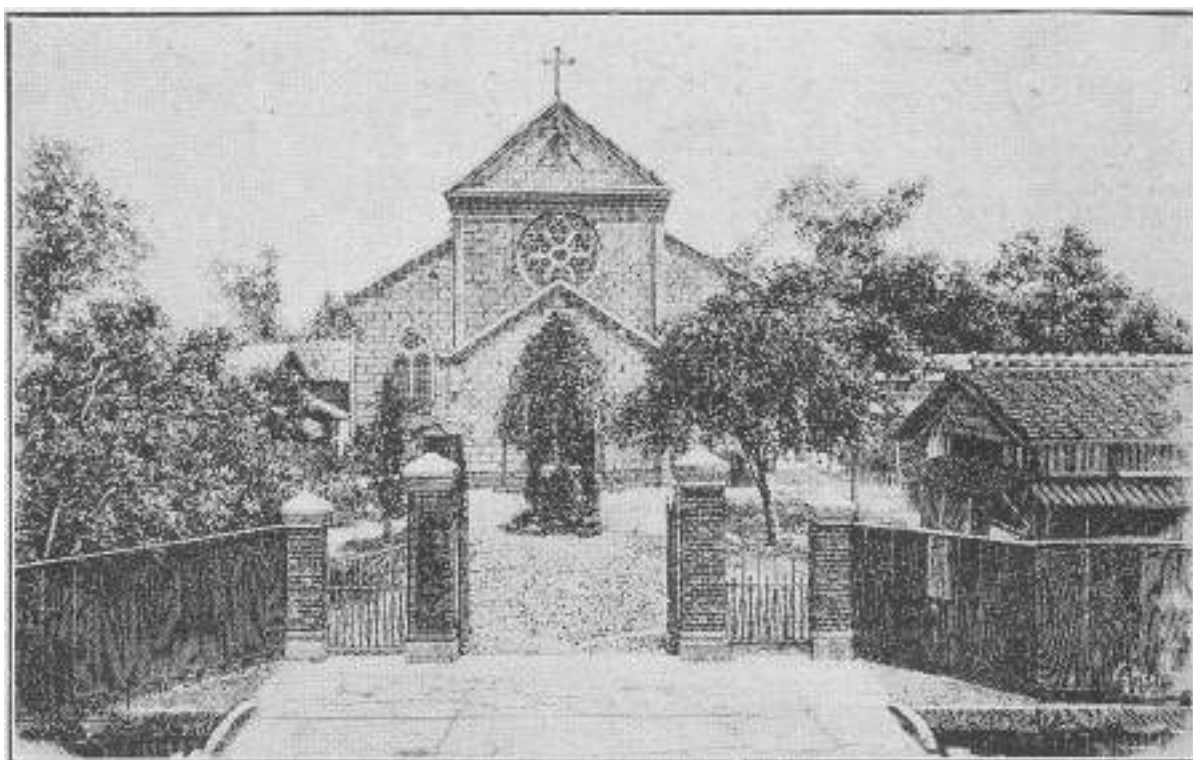


仙台教区設立 75 周年記念 仙台ロゴス公開講演会

池田 まり 講演集

「仙台教区 75 年の歩み」を語る



仙台ロゴス研究所

第17回・第18回 仙台ロゴス公開講演会 報告書

第1部 設立

第2部 終戦

[目 次]

「仙台教区の歩みを語る」

仙台教区創立

初めに、教区長、司祭、伝道師……………	3、4、8
レミュー司教とドミニコ会……………	9
神学校……………	14
聖ドミニコ女子修道会……………	16
元寺小路幼稚園……………	22
早坂久之助司教……………	27
カトリック仙台元寺小路愛国少年団……………	31
シャルトル聖ポーロ会・仙台高等女学校・仙台白百合学園……………	34

戦争と教会

開戦前、開戦……………	38
フルニエ師のこと（収容所、捕虜）……………	39
空襲（ルルドのマリア様）……………	40
戦前の元寺小路教会……………	42
仙台駅前～上杉周辺図（昭和3年）……………	43
昭和21年頃の元寺小路周辺図……………	44
終戦前の元寺小路教会構内図……………	45
終戦と教会、復興……………	46
元寺小路教会……………	46
ザベリオの聖腕……………	50
司教館、その頃……………	54、55
北仙台教会……………	57
昼屋丁教会……………	63
元寺小路教会……………	70
小林司教、マリア祭……………	75
聖体行列……………	77
浦川司教……………	78
白百合学園……………	79
早坂久之助司教……………	80

「附録」（時代背景・歴史的な参考資料として添付）

- ・仙台教区の歴史線表（明治～2010年 宮城県仙台を中心）…………… 1
- ・仙台教区の歴史年表（仙台教区設立～第Ⅱバチカン公会議）…………… 5
- ・初代仙台司教「レミュー司教の教書」（昭和2年6月29日）…………… 13
- ・マックアーサー元師の特別声明…………… 18
（ザベリオの聖腕を迎えておこなわれた『ザベリオ渡来四百年祭』に際して）
- ・ビソンネット師の北仙台教会に於ける最後の説教（昭和45年3月8日）… 19

「参考資料」

宮城県カトリック教会「百年のあゆみ」、「伝道回想録」小川昇之進、早坂久之助司教関連文献、「炬火（たいまつ）」、DOMINICANS CANADIENS AU JAPON、「仙台市市史年表」（山田虎夫著）、古い写真、「広がる愛未来へ」仙台白百合学園100年のあゆみ、「来日50年の歩み」聖ドミニコ女子修道会、「慈しみの50年」ロザリオの聖母会 仙台天使園、その他

第 1 部 2012 年 7 月 8 日

「仙台教区の歩みを語る」

はじめに

この度教会の昔の話をするようにとのご依頼がありました。昔のことを知っている人たちが少なくなり、私が語り部に選ばれたのだと思います。

資料としましてはレジメに書いたものを基本にして、それに私が見聞きしたことなどを付け加えてお話させていただきます。

色々間違っていることもあると思いますのでその点をご指摘下さい。

さて昨年は、仙台教区創設 75 周年という記念すべき年でありました。

仙台教区の歴史は教会のホームページにも書いてありますが、75 年前に仙台教区が創設されるまでの経緯をたどっていくと、それはサン・フアン・パウティスタ号 (※1)、つまり伊達政宗までさかのぼります。

最初に、仙台に伝道に来たのはフランシスコ会のソテロ師でしたが、正宗の好意のもとに伝道し、1613 年伊達政宗が支倉常長等使節をローマに遣わし、支倉常長は時の教皇ポーロ 5 世に政宗からの「仙台に司教の任命をお願いする」という親書を提出してきたのだそうです。しかし其の後禁教となり、迫害や広瀬川の殉教などがあり、鎖国となってしまいます。

(※1) … San Juan Bautista: 船名は「洗礼者・聖ヨハネ」の意

伊達正宗が建造させた約 500 トン級でスペイン風ガレオン船(南蛮船の様式)の西洋型軍船

教区長

明治に入って鎖国が解かれ、伝道が盛んになり、1891 年(明治 24 年)教皇レオ 13 世は東京大司教区、大阪、長崎司教区とともに函館教区を創設され、ベルリオーズ司教が函館の司教となりました。

昭和 2 年に司教は老齢と病弱のため函館を去られ、ウッド師が管理を引き継ぎ、其の後函館教区はパリ外国宣教会からドミニコ会に移管され、ドミニコ会のデュマ師が教区長になりました。

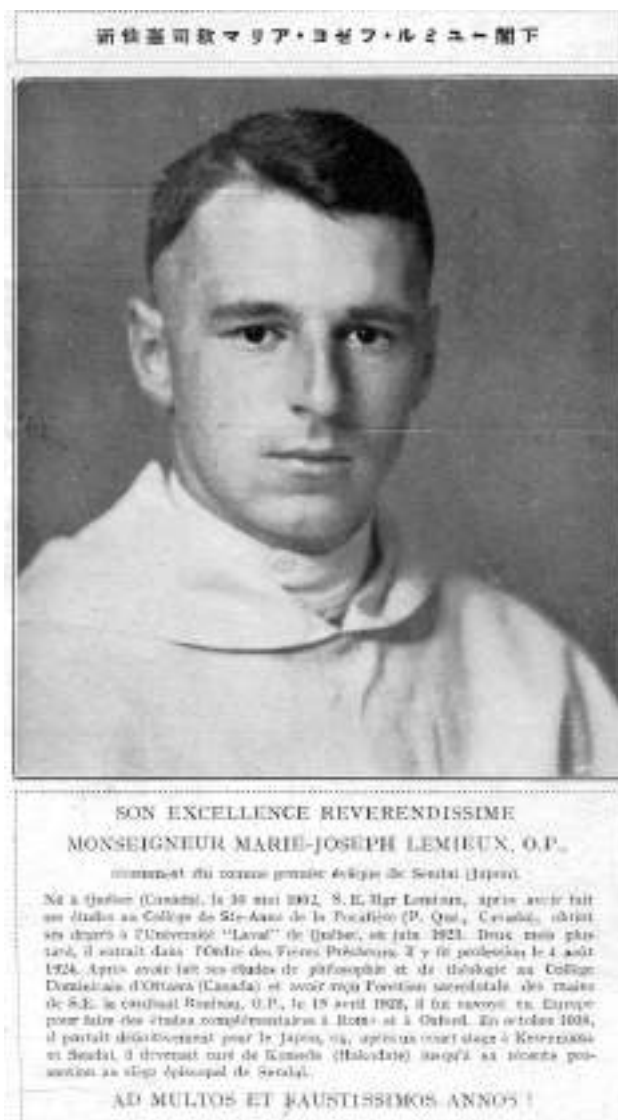
1936 年(昭和 11 年)教区長をデュマ師の跡をついで就任したルミュー師はローマ聖庁にたいして司教座を函館から仙台へ移し、仙台教区と改称することの許可を申請していたのですが、同年 3 月 9 日付で許可になり司教座を仙台に移しました。



初代の函館教区長
ベルリオーズ司教

2代目 函館教区司教
ウッド師

3代目 函館教区司教
アンドレ・デュマ師



4代目 函館 → 新仙台教区・・・仙台教区 初代司教：ルミュー司教

司 祭

まず明治5年にパリ外国宣教会のマラン師(※2)、9年にラングレ師が訪れました。明治10年から昭和6年までの間、常任主任司祭としてプロトラント師、ルマレシャル師、モーリ師、ラフオン師、クロード・ジャック師、そしてデフレンヌ師を最後にパリ外国宣教会から昭和6年5月14日ドミニコ会ビソンネット師にバトンタッチされました。

最初にカナダ管区から日本に派遣されたドミニコ会士4名の方は1928年(昭和3年)に函館に到着しました。それまでの間、新谷三郎師はジャック師を援けて活躍しております。

ここでジャッケ師のことを申しますと、ジャッケ師は明治 26 年から昭和 2 年まで 34 年間に亘って活躍されました。その間欧州からの巨額の浄財により元寺小路教会の建設を行い、明治 30 年 6 月 27 日「聖ペトロ・ポーロの祝日」に大聖堂が完成、献堂式が挙行されました。(昭和 20 年 7 月の空襲で焼失)

ジャッケ師は明治 38 年の東北大凶作のときは新谷師と共に私財を投げ出し、あらゆる手段で浄財を集め、重い袋を背負って飢えた人々に食物を配って歩きました。

(※ 2) マラン神父：明治期東北地方に最初に入ったカトリックの宣教師



マラン神父：1866年（慶応2年）来日、横浜の外国人居留地に滞在。

明治4年東京築地鉄砲洲稲荷橋付近に外国語塾を開設した。これが「マリン塾」と呼ばれ、後に「ラテン学校」と改称された。パリ外国宣教会マラン神父は政府の特別な許可を得、二人のスイス人の貿易商に同行し、1872年4月29日（明治5年）横浜を出港、海路船で函館に向かい、函館を5月9日に出発し、東北地方を縦断し東京帰着が7月1日で55日間の旅であった。仙台には3日間滞在したと云われている。…（東北に目が向けられ始まる。）

※ 戦争で敗れた仙台藩士は生活に窮し、士族の若い有能な子弟が勉学の為、つてをたよりに上京し「マリン塾」に入った。… 後に、この中から仙台北一番丁の伝道所開設にと仙台に戻り、尽力する者が出てくることになる。

ブロッツシド師



Le Révérend Père Protas,
fondateur du Poste
de Souda (1878-82).

元寺小路教会：初代司祭
ブロッツシド神父：1878～1882

2代目司祭
ルマレシヤル師
1882～1885



ルマレシヤル師

Le R. P. Lemarechal,
1882-85.

4代目司祭
モーリ師
1886～1891



モーリ師

Le R. P. Maury,
1886-91.

ド
ム
シ
エ
ル
師



Le Révérend Père Domercq,
1885-96.

3代目司祭
レゼーイ師
1885～1886



R. P. Lefevre (1888-1890).

5代目司祭
ラフオン師
1891～1893

ジャック 師



Le Révérend Père Jacques.

元寺小路教会 6代目司祭
ジャック師 1893～1927

新
任
師



Le R. P. Roux, venu de
1901-à 1906.

デフレンヌ 師



Le R. P. Doffrennes, 1927-1931.

元寺小路教会 7代目司祭
デフレンヌ師 1927～1931

明治34年清水小路（現：五橋3丁目1～2、五橋郵便局の付近）に神学校が開校、ジャック師が初代校長に任命されました。

早坂久之助司教、土井枢機卿、早坂久兵衛司教、野田師、島田師、海老師はこの神学校出身です。

この中から日本人最初の司教・早坂久之助司教、日本最初の枢機卿・土井枢機卿、大邸司教・早坂久兵衛司教の3人の司教様が出ておられます。

ちなみに早坂司教様と土井枢機卿のお父様同士は従兄弟とのことでした。



中央左…兄：早坂久之助司教

中央右…弟：早坂久兵衛司教



土井 師
B. P. Doi



B. P. Noda (1930)



島田 師
Le B. P. Shimada



海老澤 六師

昭和6年にパリ外国宣教会からドミニコ会に代わってからは、教区内の殆どどの教会はドミニコ会の主にカナダ人の神父様によって司牧されておりました。

当時の邦人司祭は数名しかおられませんでした。

ところが 1941 年（昭和 16 年）戦争が始まり、カナダ人の神父さんは敵国人として抑留され、教区各地で働いていたドミニコ会の神父さんは居なくなってしまいました。

仙台教区として当時の司祭は浦川司教、早坂久之助司教、早坂久兵衛師、島田師、貝沼師、齋藤師、深沢豊治師、深沢守三師、平塚師、小野師、ドミニコ会の渡辺師、其の他にスイス人のエグリ師、イタリア人のレンゼット師でした。
この方たちで函館から福島までの各教会を守らなければなりませんでした。

戦時中なので神父さまたちにも赤紙召集令状が来て、軍隊に入隊しなければなりませんでした。 1945 年 6 月（昭和 20 年）、深沢豊治師に 2 回目の招集が来て其の時、島田師は出張中で連絡がとれず、元寺小路教会のことは私の父・池田清と聖ポーロ修道会に託して入隊されたこともありました。

伝道師

現在は伝道師と言う名称はあまりお聞きしませんが、明治時代から多くの伝道師の方が神父さまを助けて、伝道にあたられました。

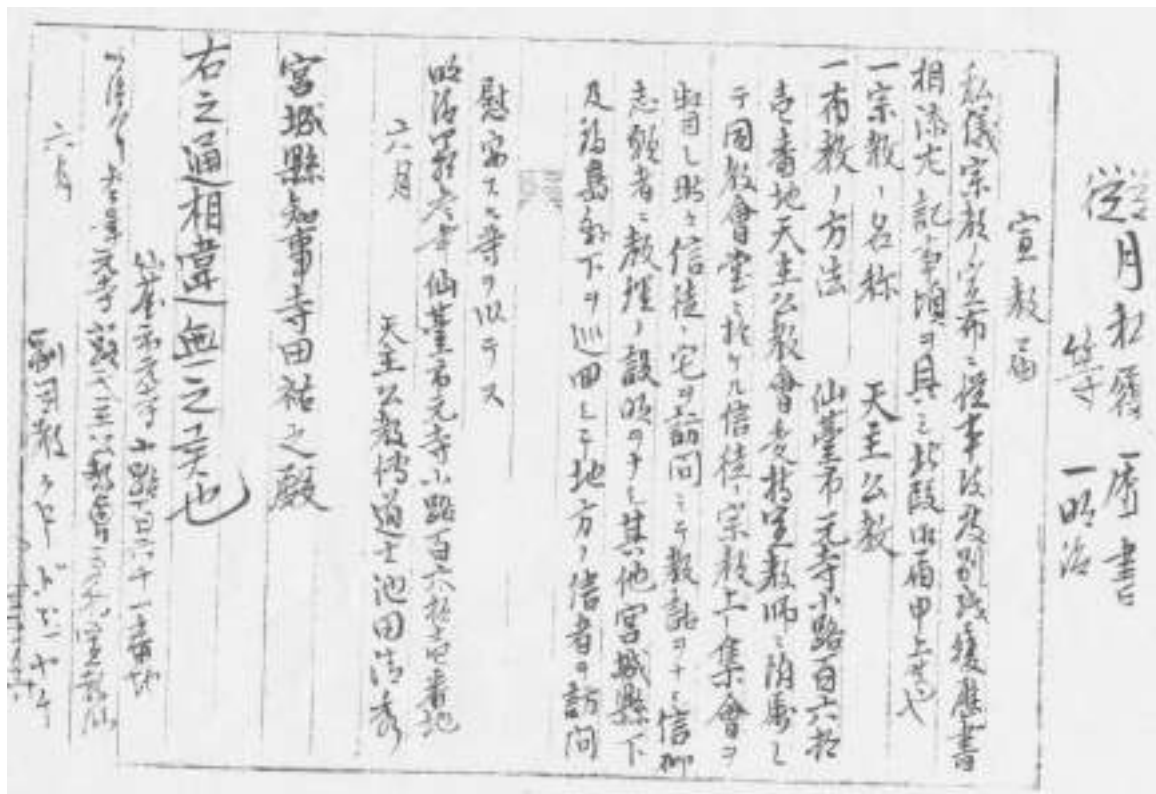
武山、黒澤、柴田、窪田、小川、安達、細淵、吉田、平間、氏家床子氏などのお名前が記録されておりますが、最後の伝道師はピソンネット神父さまの伝道師・齋藤重太郎氏です。岩淵京子さん、早坂良子さんのお父さんです

小川師の記録を見ると伝道師は伝道学校で勉強し神父さんと一緒に伝道し、通訳などもしていたようです。

私の祖父・池田清秀も明治 39 年から元寺小路の伝道師をしておりました。

残っている書類によりますと履歴書をつけて県知事に宣教届けを提出しております。





「レミュー司教」と「ドミニコ会」

レオ 13 世は 1891 年 4 月 17 日(明治 24 年) ベリオーズ司教に託して函館教区を創設されました。ベリオーズ司教は昭和 2 年に去られますが、その後はドミニコ会のデュマ師が教区長になりました。そのあとをついでレミュー司教様が誕生するわけです。

レミュー司教様は 1930 年 10 月 (昭和 5 年) に来日され、気仙沼、元寺小路、豊屋丁、函館の宮前町などで司牧され、1936 年 2 月 (昭和 11 年) に角五郎町に来られ、6 月 29 日聖ペトロ・ポーロの祝日、大聖堂建立 40 周年の日に仙台教区初代の司教に叙階されました。

式は聖堂の鐘が鳴り渡ると同時に、金色の十字架を先頭に多数の司祭、修道院長、教区長、司教に続いてレミュー師はシャンボン東京大司教、早坂久之助長崎司教の介添をうけ、その後に祭主のマレラ教皇使節は、ディオンヌ師、デフレン師、ピソンネット師、土井師を従えて入場されあたかも豪華な絵巻物のようでした。

聖歌は司祭、修道士、修道女信徒等 50 名、ラサール会のローラン修道士指揮、オルガニストはドミニコ会のドフイネ師でした。

当時は勿論足踏みオルガンでしたが足踏みだけでは空気が間に合わず、(庄子洋品店の小僧さんたちが) 自転車空気入れ 2 個で空気を補給しました。

紋章



レミュー司教



初代仙台司教の祝聖式



初代仙台司教マリー・ヨゼフ・レミュー閣下（祝聖式當日）とその紋章（上）

S. E. Monseigneur Marie-Joseph Lemieux, O. P. évêque de Sendai, tel qu'on pouvait le voir à l'issue de la cérémonie du sacre, quand il fut intronisé dans sa cathédrale, le 29 juin dernier.



喜びを満面に (左より早坂長崎司教、レミュー新司教、マレラ教皇使節、シャンボン東京大司教の諸閣下) …… 「炬火」1936 年 7 月 1 日号紙面より



聖マリアの聖母はれし新築の寺小路教会
La cathédrale de Sendai est un beau spécimen des architectures catholiques et de la construction japonaise du 19^{ème} siècle. Elle fut achevée en 1891 et a été consacrée le 24 avril 1892 par le cardinal.

「炬火」1936年
7月1日号紙面

「炬火」1936年
7月1日号紙面

元寺小路教会の紹介と
同頁に掲載されている
仙台城の大手門と角櫓



本丸跡に建ちし角櫓の複製

角櫓の複製と大手門と角櫓

昭和15年から16年にかけて、日本は戦時体制が強化され、ローマ法王庁はつぎつぎと邦人の教区長を任命され、浦川司教様は仙台教区最初の邦人教区長として司教に叙階されました。

レミュー司教は昭和16年のはじめ頃カナダへ移られました。

レミュー司教様から叙階された神父様は貝沼師、七崎（函館にて）小野師、深沢守三師、児山師、川井師、澁谷師、佐々木博師、佐藤司教様たちです。

ドミニコ会時代に仙台に来た修道会は、聖ドミニコ女子修道会、聖ウルスラ修道会、ラ・サール会、アンジェの善き牧者愛徳の聖母修道会などです。

またドミニコ会は将来の発展に備えて東仙台に 6 万坪の地所を購入し、1937 年（昭和 12 年）に神学校、1938 年に修道院をたてました。

神学校は昭和 16 年太平洋戦争が始まり閉校となりました。

1939 年（昭和 14 年）東仙台光ヶ丘教会開設、仙台を中心として、郡山、福島、盛岡、青森などの地方の中心都市に修道会の招致、十和田教会の新築、気仙沼教会の司祭館新築、さらに教区機関紙「炬火(たいまつ)」の発刊をしました。

写真は昭和 23 年のドミニコ会の神父さんたちと修道院が写っています。

2 列目の左から 3 人目に佐藤司教様の若い時のお顔があります。



神学校

仙台に神学校ができたのは1901年（明治34年）で、それ以前、神学生は東京、長崎などの神学校で勉強しました。

仙台神学校は清水小路（現：五橋3丁目1～2、五橋郵便局付近）にあり、ジャック師が校長となりました。早坂兄弟、土井師はここからローマへ留学。

後に、清水小路の小神学校はたばこ専売局に買収となり、1907年（明治40年）角五郎町（北五十人町）へ移転、校長はデフレヌ師となりました。

1924年（大正13年）島田師、海老師がローマへ留学、これを最後に小神学校は函館に移りました。

其の後ドミニコ会により、1937年（昭和12年）に神学校が東仙台的光ヶ丘に創設されましたが、昭和16年太平洋戦争が始まり閉校となりました。



1910 明治 43 年 11 月 3 日 神学校生徒
Kanaya ?
Doi Pater Deffrenne
Tanaka Makino

清水小路の
小神学校時代の写真



邦人司祭窪成の殿敷たる光ヶ丘の仙臺教區神學校

東仙台【光ヶ丘】聖ドミニコ会 仙臺小神学校

初代校長：ディオンヌ師 就任

昭和 12 年 6 月 21 日：地鎮式（井出工務所 施工）11 月完工



仙台市東仙台（光ヶ丘）聖ドミニコ会修道院 落成式：昭和 14 年 10 月 5 日

聖ドミニコ女子修道会

※聖ドミニコ女子修道会については、講師：シスター桜井高子さんがお話されました。
《*Sr アヌ・フランソワズ 桜井高子：大正9年生まれ、昭和17年入会、創立期に来日した外国人シスターから直接指導を受けた初期の邦人シスターの一人。 仙台天使園で戦前は赤ちゃん、戦後は混血児の世話や聖ドミニコ小学校で働いた。》

【創立・来日】

創立についてはドミニコ説教者兄弟團の加奈陀管區長のラングレイ師が、聖ドミニコ童貞會總長に對して、日本の地に聖ドミニコの生活を拓くべく一團の修道女の派遣を勧請せられましたのによるのでございます。

1931年10月8日（昭和6年）、最初の5人（聖ドミニコ童貞會）がフランス・アメリカ・カナダから函館教区の仙臺の地に来られました。

《仙臺角五郎丁教會構内…「天使の聖母修道院」を始める。》

第一回來朝の聖ドミニコ童貞會修道女



「たいまつ」

昭和十年十一月一日」

発行の記事より



聖ドミニコ童貞會の假修院とな
りし舊角五郎丁小神學校全景

Vue générale de l'ancien Petit-Séminaire de Tsunoguchi-chô, où les Sœurs Dominicaines se sont provisoirement installées à leur arrivée à Sendai, le 8 octobre 1931.

【育児事業－天使園】

私たちの本来の目的は学校設立だったのですが、摂理的にそれはずっと後の事になりました。私たちは1931年10月8日（昭和6年）、日本に到着しました。するとすぐに近所の子供たちが私たちの処に毎日遊びに来始めました。そこで午後4時から公教要理の時間にしました。子供たちは神様のみ教えを喜んで聞きその後遊んでおりました。ところがその中の一人にチコちゃんという女の子は、これだけでは満足せず殆ど私たちの処で過ごしておりました。チコちゃんの来訪の時間は日増しに速くなり、私たちは毎日チコちゃんの小さな声で「あけて、どうていさま、あけて」というのを耳にしました。

1933年（昭和8年）春、夫を病で亡くし4人の子供を伴って遠戚を頼って仙台に来たが、縁者の居所が見つからず捜し疲れ、元寺小路教会の前に来た時は歩けなくなり年少の3歳の女兒が泣き出した。その泣き声に驚き外に出たビソネット神父が困窮している事情を知り、その身の振り方に心を痛め、同じドミニコ会の女子修道会に養育を依頼されました。

《4人の幼い子供を連れて「お引取り下さいませうか」と請う人がございましたので、喜んで「どうぞ」と御答えして御引取りいたしました。（たいまつ昭和10.11.1記事）》… 時の院長メル・メリ・ドミニク・ロゼールはこの出来事の中に神の摂理を感じ（つまり、これは別の形での「あけて、どうていさま、あけて」の声でした。）、本部に子女の養育の許可を求めました。修道会本部はこの事を許してくださいました、と同時に「何故チコちゃんも迎えてあげないの？」と言われました。

《創立者：スール・ドミニク/スール・マルグリット/村本園長；50周年記念誌；談》
《来日僅か3年にして、児童福祉という言葉もなかった時代に、恵まれない子供たちと寝食を共にしようという修道会の姿勢がこの事業を始めることとなりました。…（佐藤千敬司教：50周年記念誌；談）》

天使園が正式に誕生し、1933年4月（昭和8年）にもう一つの布教事業が開始されました。当時、昭和初期の東北地方は相次ぐ大凶作に非常に困窮しておりました。



最初の子供たち



昭和8年のお祝い日の風景

【火災・敷地購入・修道院の本建築】

1934年2月27日(昭和9年)早朝失火により、仮修道院の大半が炎上しました。仮遇から住むべき土地建物を探し求めましたが、全て徒労に終わりましたが、ついに1934年9月角五郎丁の地に決定しました。

角五郎丁教会の傍らに修院を建て住み事業を営むことが出来るようになりました。

昭和十年十一月一日「
発行の記事より



一九三四年二月十七日の火災直後の旧修院
Le monastère provisoire des Soeurs Dominicaines, après
l'incendie du 17 février 1934.

翌1935年5月工事に着手、木造モルタル3階建ての新修道院10月落成式挙行。

新修院の祝別式を終へて
(一九三五年十月八日)

Photo-souvenir de la bénédiction solennelle du monastère des Soeurs Dominicaines, à Tsunogorô-chô (Sendai), le 8 octobre 1935.





内庭より眺めし新修道院

【再び火災】

1940年4月（昭和十五年）、聖堂と3階を焼失、再び3階建ての修道院に改築。

【軟禁】

1941年12月（昭和十六年）、大東亜戦争勃発と同時に外国人修道女は、初めは元寺小路教会構内に、次に東仙台の善き牧舎修道院、最後に畳屋丁教会構内と転々と軟禁生活を続けました。

一方角五郎丁の生活は、憲兵隊や特高課の厳しい監視の下に続けられ、資金の凍結、物資の不足・病人の続出と4年間の悲惨な状態が続きました。食糧事情は戦争の進展と共に切迫し、大人と子供も栄養失調寸前にまで落ち込んでしまいました。

【戦災】

1945年7月（昭和二十年）、米軍の仙台空襲で爆撃され15発の焼夷弾が構内に落下し一切が灰燼に帰してしまいました。学童は近くの“まるや池”に避難し、乳幼児の大半は庭の大池の畔で焰に包まれて夜中燃え続ける修道院を見つめていた。

建物は焼けてしまいましたが、園児にも修道女にも被害者が出なかったのは幸いでした。

空襲の夜明けの朝まだくすぶっている修道院の木材の上に、鍋を乗せミルクを温めて赤ちゃんに飲ませていました。

（聞くとところによると、修道院は軍需工場として米軍の地図にマークされて居たとのこと。角五郎地区で戦火にあったのはここだけであった。）



昭和20年7月9日仙台空襲で全壊した修道院と乳馬棟跡



焼け跡でブランコ遊び



かろうじて戦災をまぬがれた園舎の一部
戦災後は、この建物で修道女も子供たちも、しばらくの間一緒に生活を
した。



仙台ばかりでなく、東京方面の戦災孤児も多勢入園して来た（昭和20年12月）

※ 注：聖ドミニコ女子修道会(戦前)については編集時に、S r 桜井高子講師のお話
に「たいまつ」「来日 50 年の歩み」「慈しみの 50 年」等をもとに、加筆と写真を
追加させて頂きました。



昭和42年まで建っていた、仙台で明治の記念すべき建軸とされていた北五十人町教会の内部。

元寺小路幼稚園

昭和初期カトリック経営の幼稚園の希望が高まっていたところ、昭和4年奈良女子高等師範学校保母科出身の岡京子氏が来仙することになり、主任司祭デフレンヌ師（パリ外国宣教会最後）と相談の上、設立を青年会に委嘱されました。

当時の青年会長、東北大学理学部教授・高橋純一氏の熱意と、資金面でのデフレンヌ師、及びドミニコ会の援助により設立でき9月15日開園（「舊園舎」1929－1937）しました。

パリ外国宣教会最後のデフレン師が初代園長で、経営は青年会が担当し信徒の協力によって運営されました。

昭和7月9月経営は教会に移り順調な歩みを続け、昭和12年二代園長ドミニコ会ピソンネット師は多大の私財を投じて立派な設備と園舎を新築しました。私と姉2人も卒園生です。

1945年（昭和20年）戦争も激しくなり3月31日で廃園となり、7月10日の仙台空襲で焼失しました。

幼稚園でもう一つ、昭和15年4月聖ウルスラ会の幼稚園が開設されましたが戦争直前の時期で、敵国人の経営に警察は目を光らせていましたので私の父・池田清が園長を依頼されました。

当時は父もスパイ視されており警察からマークされており、また軍国華やかな時でしたので、卒園式の時などわざわざ軍医時代の陸軍中佐の軍服にサーベルをつけて参列したりしておりました。





元寺小路幼稚園 開園式記念 1929 年 9 月 15 日

「たいまつ」昭和十二年十一月三十日発行に掲載の写真 { 新園舎の新築特集記事の中で
“元寺小路幼稚園沿革”の開園式記念(昭和四年九月十五日)として紹介 }



見事に成れる新園舎と
現園長ビソンネット師



「たいまつ」昭和十二年
十一月三十日発行より

受附前の賑ひ（落成式當日）と後援會幹部と園児及び職員



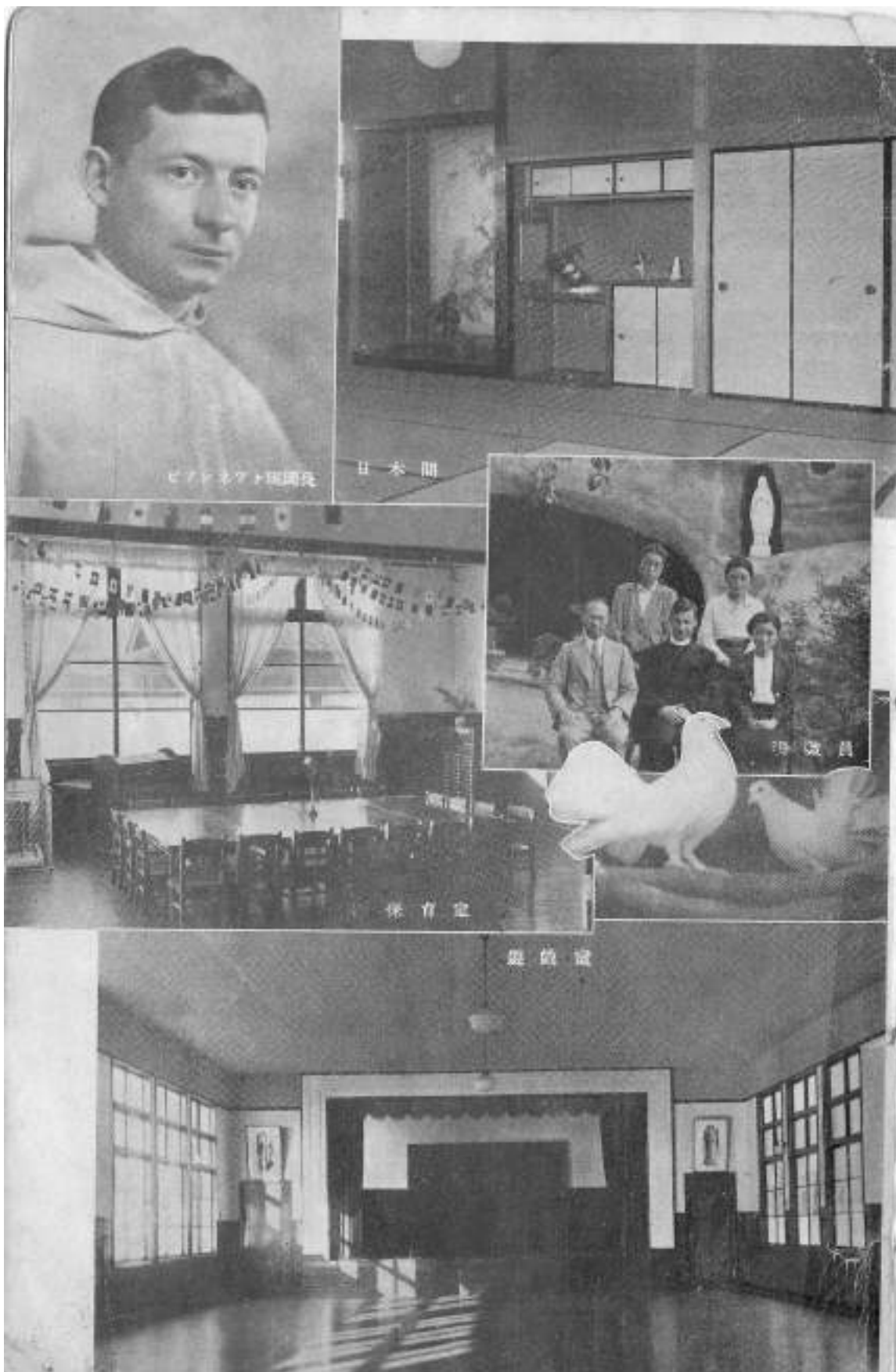
池田まりさん↓



元寺小路幼稚園 1937 年（昭和 12 年）

新園舎の落成祝賀式は昭和 12 年 11 月 28 日午後 1 時より挙行され、来会者 700 名は聖体降福式に興り、次いでレミュー司教の園舎祝別式に移り、その後祝賀会に入った。

祝賀会の余興の中で、園児お得意のオーケストラ、コーラス、ダンスと拍手を浴びつつ、ご披露に及び、夕方 5 時過ぎ散会した。（昭和十二年十一月三十日発行「たいまつ」に掲載）





光ヶ丘へ移轉した開園舎

御挨拶

……解説をかねて……

園の創立は昭和四年九月、開園式の寫眞には初代園長デフレンス師の面影が忍ばれる。創立から將來の見通しのつく迄の三年間、經營の任に當つた私共には、今は光ヶ丘にある開園舎が懐しい追憶である。その新裏に奉仕した武宮氏も既に故人となつた。卒業式の寫眞も十一葉、同窓生も年毎にふえる。現在の立派な設備と園舎、これは二代園長ビソネット師が昭和十三年の新築、多大の私財を投じての賜ものである。

保育の成否は保育者その人に在る。こゝには勤職十年の細川先生を中心に松橋、板垣両先生の質實な保育陣が頼もしい。

池田理事、齋藤主事何れも創立以來の奉仕者、その他、園や教會の關係者各位からも創立以來有形無形の恩恵をうけた。これ等の方々と共に創立十年の喜びを分かち厚き感謝の意を表したい。

(高橋)



使命を果し上げた舊園舎 (1929-1937)

歌長醫師池田氏



Le Docteur Ikeda, maitre-de-chapelle.

光ヶ丘教会主任司教の歡送會（上）と
同教會の聖堂開き（左）

Aleux du R. P. Laroze, le 12 juillet dernier, aux chrétiens et aux catholiques de la Vallée de la Lurrie, à Sordani, après lesquels il s'est dirigé pendant plus d'une heure. Le R. P. Dodon est désigné une seconde fois au poste qu'il avait déjà occupé de mai 1933 à janvier 1934 : la photo ci-contre (à gauche) nous laisse voir la chapelle construite devant l'entrée de la chapelle pour servir d'entrée en la fête de saint Dominique, le 4 août dernier.



光ヶ丘の聖堂開き

光ヶ丘教会の御聖堂開きは

昭和 13 年 8 月 4 日聖ドミニコ

の大祝日であった。

なおこれまでは光ヶ丘の信者は神学校の聖堂で務めを果たしてきたが今度は自分達の聖堂を持つことになった。勿論聖堂といってもほんの假で元寺小路幼稚園きゅうえんしゃの舊園舎を運んで来て、その一室十四敷を改造したものである。…「たいまつ」昭和十三年九月十五日号より

（使命を果たし終えたかに見えた「きゅうえんしゃ舊園舎」は、元寺小路から光ヶ丘に移り、光ヶ丘教会の聖堂として再び息を吹き返す。）

早坂久之助司教

早坂司教様は久之助司教様と久兵衛司教様と兄弟で司教様になりましたが、ここではお兄様の久之助司教様のことをお話いたします。

司教様は 1927 年 10 月 30 日（昭和 2 年）、日本人最初のカトリック司教としてローマの聖ペトロ大聖堂において時の教皇ピオ 11 世によって長崎教区長に選任され、司教に叙階されました。

司教様は邦人修道会として長崎純心聖母会を創立し、女子教育のためのカトリック校・純心女子学園を創設しました。

司教様の父上は名掛町の八百屋さんでしたが、教会のコックさんとお友達になったのがきっかけで、家族全員洗礼を受けられました。土井枢機卿の父上と従兄弟だったので土井家に対して教会への最初の案内役をつとめました。

一昨年、私がフランスのリジューに行った時聖テレジアの聖堂で、現地のガイドが日本の最初の司教がここで聖女テレジアに日本人の改宗のために祈りました、と説明しました。

帰国後純心のシスターにお話したところ、あの聖堂の中に司教様が描かれている御絵があるとのことで、送ってもらいました。



日本人最初の司教：早坂久之助の司教叙階
1917年10月30日、ローマの聖ペトロ大聖堂
中央は早坂司教、向って左端上段は教皇ピオ11世（原写真は早坂兼吉氏所蔵）

日本人最初のカトリック司教、早坂久之助の司教叙階の報道記事表紙「ニッポン・フナフナ」紙、1917.10.10日刊



ローマにて撮影された早坂久之助司教叙階記念写真（原写真は早坂兼吉氏所蔵）



長崎司教早坂閣下
S. K. Mar J. Maronita, O. S. B. de Nazareth.
信濃元寺教會主任司祭時代





——羅馬留學を記念して父母兄弟姉妹——

Ayant terminé ses études supérieures en 1905, le brillant séminariste de (troisième rangée, debout au centre) Sendai est envoyé par ses supérieurs au Collège de la Propagande; avant de partir pour Rome, le jeune séminariste se fait photographier avec sa famille.



Les chrétiens de Sendai font une réception triomphale au premier évêque japonais, qu'ils sont contents de compter comme un des leurs.

仙臺三教會の新司教歓迎會（仙臺高女にて）



De retour de Rome, le jeune prêtre est reçu au Petit-Séminaire de Sendai.

羅馬より歸つて（角五郎小学校にて）



Les chrétiens de Sendai sont très de souhaiter la "Bienvenue" à leur compatriote devenu prêtre après de brillantes études au Japon et en Europe.

仙臺教會の歸朝歓迎記念



カトリック仙台元寺小路愛国少年団

昭和8年8月ビソンネット神父様を指導司祭・団長は齋藤重太郎氏として誕生しました。少年団の目的は健全な少年の養成にあります。カトリックであることを目標としました。

レミュー司教様は少年時代少年団健児として心身を鍛えられ、少年団が如何に少年時代の修養、鍛錬に大きい効果を与えるかをよくご存知で少年団に特別の関心を示され、馬放島での野営に参加され、食事をともにされ夜はテントに泊まり、翌朝には健児のために野外ミサを捧げられました。

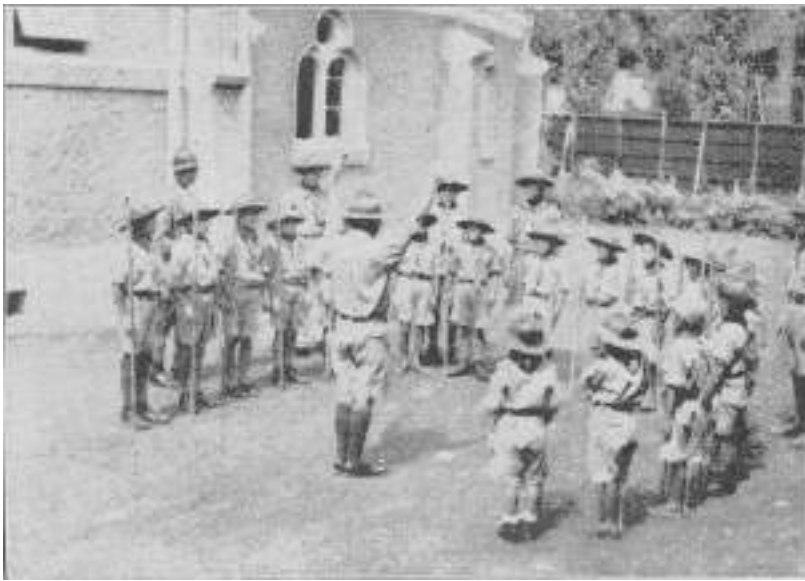
1935年1月（昭和10年）愛国少年少女団が緒成され、昭和13年9月ヒットラーユーゲント来仙の時は私も仙台駅に迎に行きました。

昭和13年6月、日本の少年団から12名がイタリア訪問に選ばれました。その一人として仙台から江刺四郎さん（江刺さんのお父さん）が選ばれました。

カトリック健児は彼一人だったので、教皇様に「たいまつ」、「正宗の像」、「伊達家の書」などを献上しました。各地を訪問され4ヶ月後に帰国されました。



仙台元寺小路愛国少年団
団長 齋藤重太郎氏とその訓話



仙臺司教レミコ殿下の仙臺光寺中野國少年團
野營地に於けるミサ（八月六日松島灣馬放島にて）
Pax vobis! S. E. Mgr Lemoine célébrait la sainte messe au campe-
ment des scouts de Sendai sur l'île Mahorobi. C'était la première
fois que l'on célébrait la messe à cet endroit.



鼠島演習場少年團の除隊兵歡送
Réception faite par les Scouts de Kusunoki par les soldats
retour du service militaire.

シャルトル聖ポーロ会・仙台高等女学校・仙台白百合学園

明治19年より元寺小路教会の主任司祭であったモーリ師は若い子女のための上級学校の設立の必要性を認め、聖ポーロ会の来仙を希望し、市当局と交渉を重ね、敷地を求め居館を建てるなどして万全の準備をしました。ところが会の来仙決定の前に残念なことに師は病のため香港に移つられました。

明治25年、会の来仙が決まると師は仙台にいる氏家床子伝道師に伝え、彼女がシスターたちを迎えるため東京に向わせシスターたちを仙台にお連れしました。

しかし学校設立の認可は容易に下りませんでした。そこで許可を待つ間病者への奉仕を行い、予想以上の成績をあげました。愛之堂医院として後に県から表彰されました。空襲で焼失するまで父・池田清が院長をしておりました。

明治26年認可が下りて4月に開校となりました。

私は昭和19年に入学しましたが、20年7月10日の仙台大空襲ですべて焼失し、東六小学校やウルスラ修道院を借りて授業をうけました。

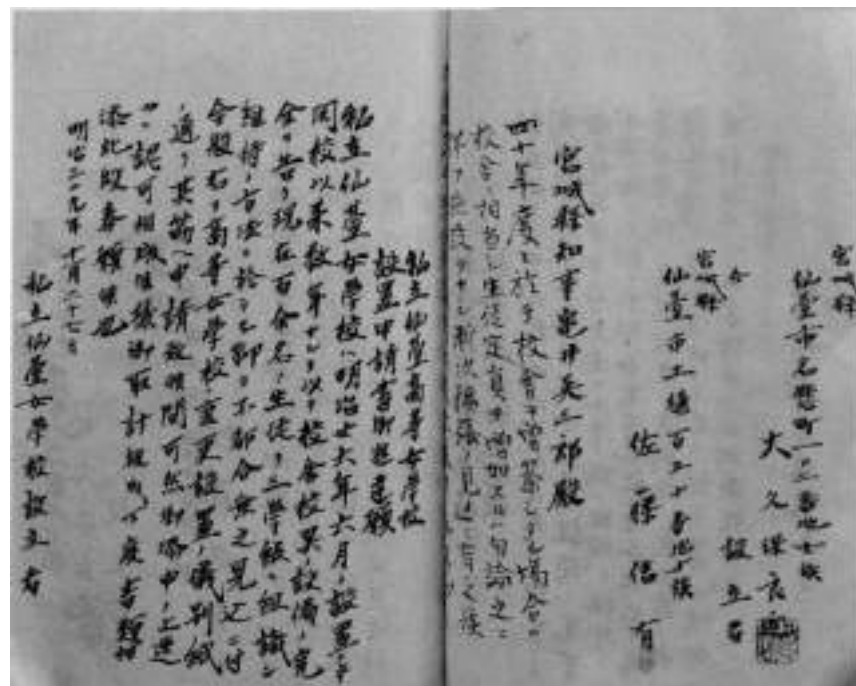
其の後ビソンネット神父様のご尽力により、敷地を拡張し発展し、12年前に現在の紫山に移転し、発展を続けております。

1907年3月（明治40年）

「私立仙臺高等女学校設置認可」を受ける。

初代校長：スール・エメ・デボアシ

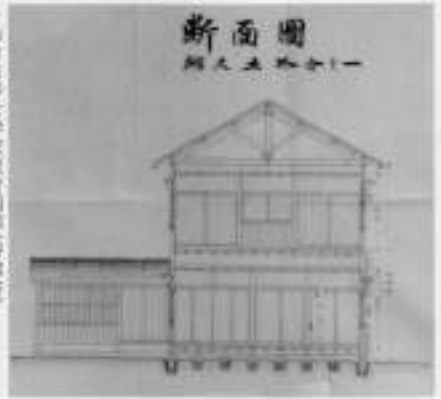
生徒定員：150名 修業年限4年、授業料1円50銭 週時間数30時間



▲私立仙台高等女学校設置申請書進達願



▶仙臺高等女学校校舎(新築) (新築舎)



▲新立台新築せられた宿舎(新築舎)



▲大正8年。校名を「仙台高等女学校」と改める

大正
仙臺高等女
学校



▲改築された新校舎



▲ピラミッド体操



▲空襲で焼け残ったルルドのマリア像



戦争と教会

開戦前

昭和 6 年に満州事変が勃発し次第に太平洋戦争への道をたどることになるのですが軍部のカトリックに対する圧迫が強まり、カトリックの立場は苦境にたたさることになります。

ドミニコ会が仙台教区を受け持った時代はこの時期で、布教が困難な時期でしたがドミニコ会は将来の発展に備えて光が丘に広大な土地を購入し、ドミニコ会の修道院、神学校を設立し、教区機関紙「たいまつ」を発刊し、教区の基礎を築きました。

昭和 12 年に日支事変が勃発し、男性たちには召集令状が来て軍隊に入れられました。「たいまつ」の記事にも出征した信者の名前が載っております。みなさんご存知の山田虎夫さん、小野寺神父のおじいさん・高橋勝男さん、私の父・池田清、他数名の名が書いてあります。

1939 年（昭和 14 年）に宗教団体法が成立しましたが、この法案の意図するところは戦時体制強化の一環として宗教統制でありました。

一番問題となったのはローマ教皇庁との関係を断ち切るようにという強い要求でした。このような危機は田口枢機卿のお力で教会を守ることができました。

ローマ教皇庁では日本の時局緊迫に対処して昭和 15 年から 16 年にかけて京都、広島、浦和に邦人教区長を任命し、仙台では昭和 16 年 1 月に浦川司教が着任し、レミュー司教はカナダに帰えられました。

開 戦

昭和 16 年 12 月 8 日太平洋戦争が始まりました。その日小野神父様が外出から帰ると大勢の刑事が司祭館、司教館に土足で入り込み、引き出しや本棚をひっくり返しスパイ容疑としてラテン語で書いてある洗礼名簿などの帳簿を押収していきました。続いて、司教館と司祭館を敵国人の収容所にするから即刻引き渡すようにと命令されました。浦川司教様は幼稚園の二階にある和室に移られました。神父さんたちは敷地内に住んでいた齋藤伝道師さんの家を空けてもらって移られました。

齋藤さんは岩淵京子さん、早坂良子さんの実家です。

急に空けて下さいと言われて大変なことだったと思います。

その移転も終わらないうちに刑事は収容するカナダ人の神父さん修道女たちを連れてきました。

宮城県だけでなく青森県、岩手県福島県でも同じようことが行われました。 収容所周りには高い塀がたてられました。 しかし、どういう訳かわかりませんが大聖堂の脇の出入り口が収容所の敷地に通じており、神父さんたちは御ミサを挙げておられました。信者たちは御ミサにあずかったり、それを利用して差し入れなど届けたりしておりました。

当時の司祭は邦人 10 人（浦川司教、早坂司教、早坂、島田、貝沼、深沢兄弟、小野神父、ドミニコ会の渡辺、エグリ、レンゼット神父）でこの方たちで、函館から福島までの各教会の司牧にあたられました。

昭和 16 年に軍は敵産管理法つまり敵国関係のものは軍が管理するという法律が施行され、光ヶ丘の修道院と神学校の土地と建物を買い上げると言ってきました。この時は土地建物に詳しい藤田貞蔵氏のご尽力により、教会の言い分も幾分なりとも通すことができました。

神父さんは勿論のこと信徒もスパイの疑いで監視され、私の父も警察から尾行されておりました。

ウルスラの清水道子先生も、まだ修道院に入る前でしたが、ピソンネット神父様の所でお話していた時警官が来てそのまま運行され一晩警察に留置されました。

警察は「キリストと天皇とではどちらが偉いか答えよ」、とか「ローマ教皇が日本を攻めてきたらどうするか」などの質問を繰り返しておりました。

御ミサでも君が代を歌ったり、聖歌集 32 番の祖国・以前は邦国の歌、今は殆ど歌われませんが、「日出ずる国 わが日の本 さいわい 恵みたまえ 天つみ親 大君を まもれ とこしえに」

アーメンと言う言葉は敵国語で禁止され「然あれかし」と言わせられました。聖堂内の横文字の物は手当たりしだい押収していきました。

私の父が教会に置いていたラテン語のミサ典書が終戦後警察から送られてきました。空襲で焼けてしまったと思っていた物が警察で保管されていて助かったのです。

フルニエ師のこと

神父さんは函館宮前町教会の主任神父でしたが、スパイ容疑で札幌刑務所に入れられました。どのような扱いを受けられたことでしょうか。ある日突然、小野神父さんのところに警察からフルニエ師をカナダに帰すから所持品の始末のことで直ぐ来るようにと電話を受け、行ってみるとオーバー、背広、靴など目ぼしい物は警察がみな持って行き、雑然と床に山積みになった洋書を売却してそのお金を本人に持たせてやるとのことでした。

戦後昭和 39 年、当時カナダ遊学中だった師と仲良しだった今田氏がフルニエ師に会うべくドミニコ修道院を訪問し、受付係りの修道士に取り次いでもらうとその答えは「神父様は日本人に会いたくないそうです。」だったそうです。

元寺小路教会に收容されていたカナダ人の司祭その他の人たちは、昭和 17 年 12 月に浦和に移されました。其の後に捕虜たちが收容されました。

ある夜、島田神父さんの部屋の窓をたたく人があり、開けてみると收容されている捕虜の一人でした。彼は監視の目をくぐり塀を越えて神父さんに告解を聴いてもらいたくて来たのだそうでした。窓越しに告白の秘跡をいただいて再び塀を越えて收容所に戻りました。これは竹内正也先生から聞いたことです。捕虜が敵国人の司祭に告白する、その信仰に感動しました。

空襲

昭和 20 年 7 月 10 日 0 時頃から未明にかけて B29 約 100 機による、仙台中心部無差別焼夷弾空襲がありました。元寺小路大聖堂、司祭館、司教館、白百合学園校舎、修道院、角五郎町の聖ドミニコ女子修道院は全焼しました。

周りが燃え始めている中、避難するにあたり島田神父さんは聖櫃のご聖体を拝領するのですが、一人では拝領しきれないので傍にいた竹内正也さんに「お前も食え」と言われ、一緒に拝領し降り注ぐ焼夷弾の中を光ヶ丘へ避難しました。

私の家は教会から 10 分位の所でしたが、幸い焼かれずにすみ大勢の方が立ち寄られました。

ある朝夜明け前の薄暗い時、白百合に勤めていた伊藤さんという小父さん（一本杉の中田さんのおとうさん）が、白百合のルルドのマリア様を背負って我が家にこられました。白百合の建物は全焼したのですが、ルルドのマリア様だけは全く無傷のままでした。

当時は近所の人たちは空襲で焼け出され、敵国に対する恨み、憎しみは頂点に達しておりましたので、腹いせに敵国宗教のルルドのマリア様を引きずり落として危害を加えたりされるのでは、と心配して我が家にお運びしてきたのです。

教会のルルドのマリア様も無事でしたので、同じ事を心配して夕方薄暗くなってから父と一緒にマリア様に我が家に避難してもらいました。こちらの像は重くて背負えるようなものではありませんでしたので、毛布に包んでリヤカーで運びました。

2 体のマリア様を床の間に立っていただくと見事なものでした。

戦争が終わり安心できるようになって、もとの場所に御返しました。



仙臺の聖保記念、元寺小路教會ル・F洞窟前にて（中央がデュー・教長）
 Dernières Confirmations à Sendai.
 (On remarque Mgr. Dumas au centre)

〔 元寺小路教会のルルド 〕



〔 仙臺高等女学校（白百合学園）のルルド 〕

戦前の元寺小路教会



戦前式の行はれし戦前元寺小路天主堂

La cathédrale de Sendai se voit décrire les églises catholiques de la province japonaise de H. Mgr. Lefebvre. En haut, vue de l'extérieur; en bas, vue de l'intérieur (cf. p. 78) après la restauration.



戦前元寺小路天主堂（戦後改装直後）

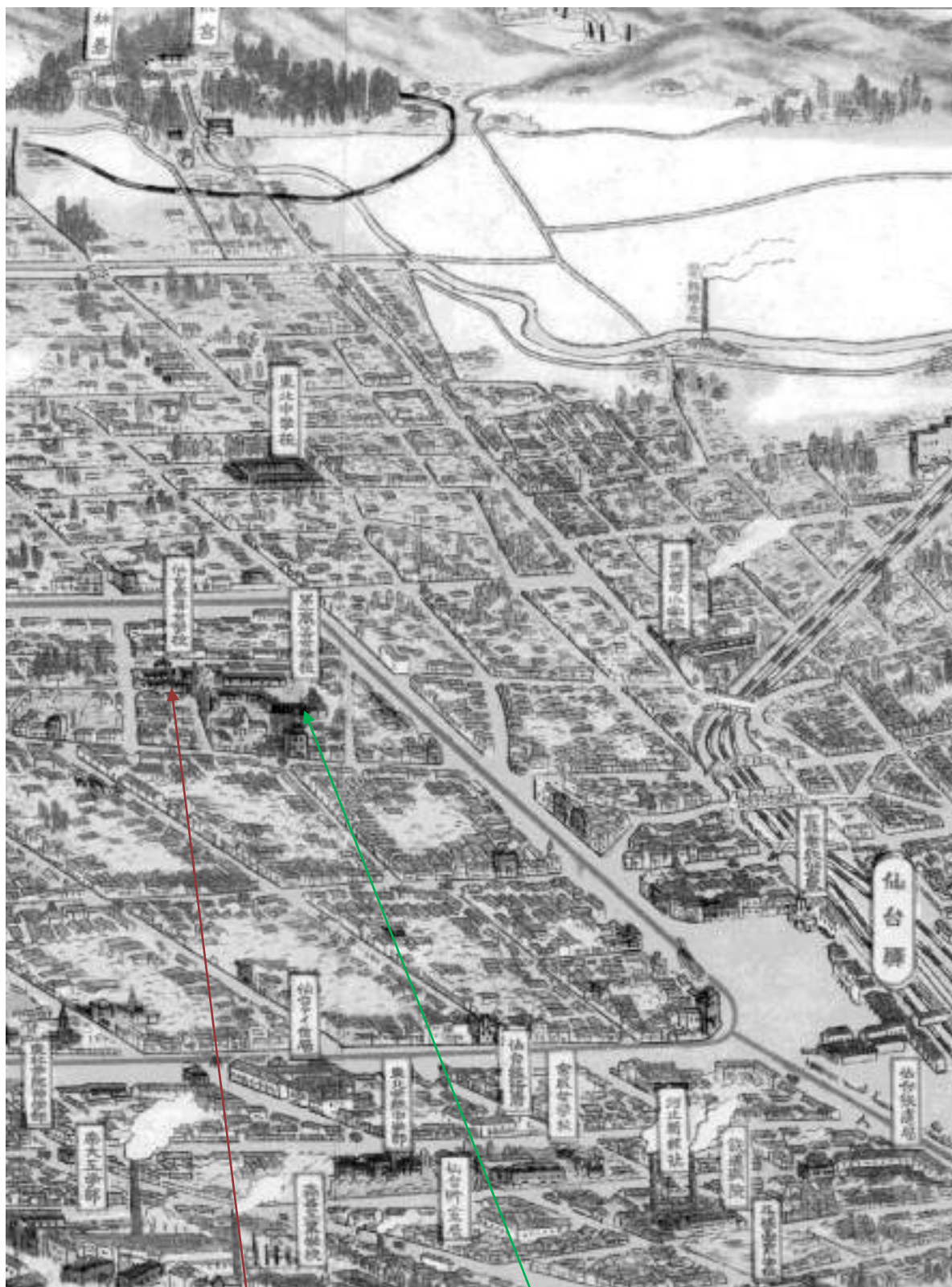
Le T.R.P. Bissonnette, en charge du Poste depuis 1901.

L'extérieur de l'église de Sendai, après la restauration de 1934.

L'intérieur de l'église de Sendai.



仙台駅前～上杉周辺図（昭和三年）



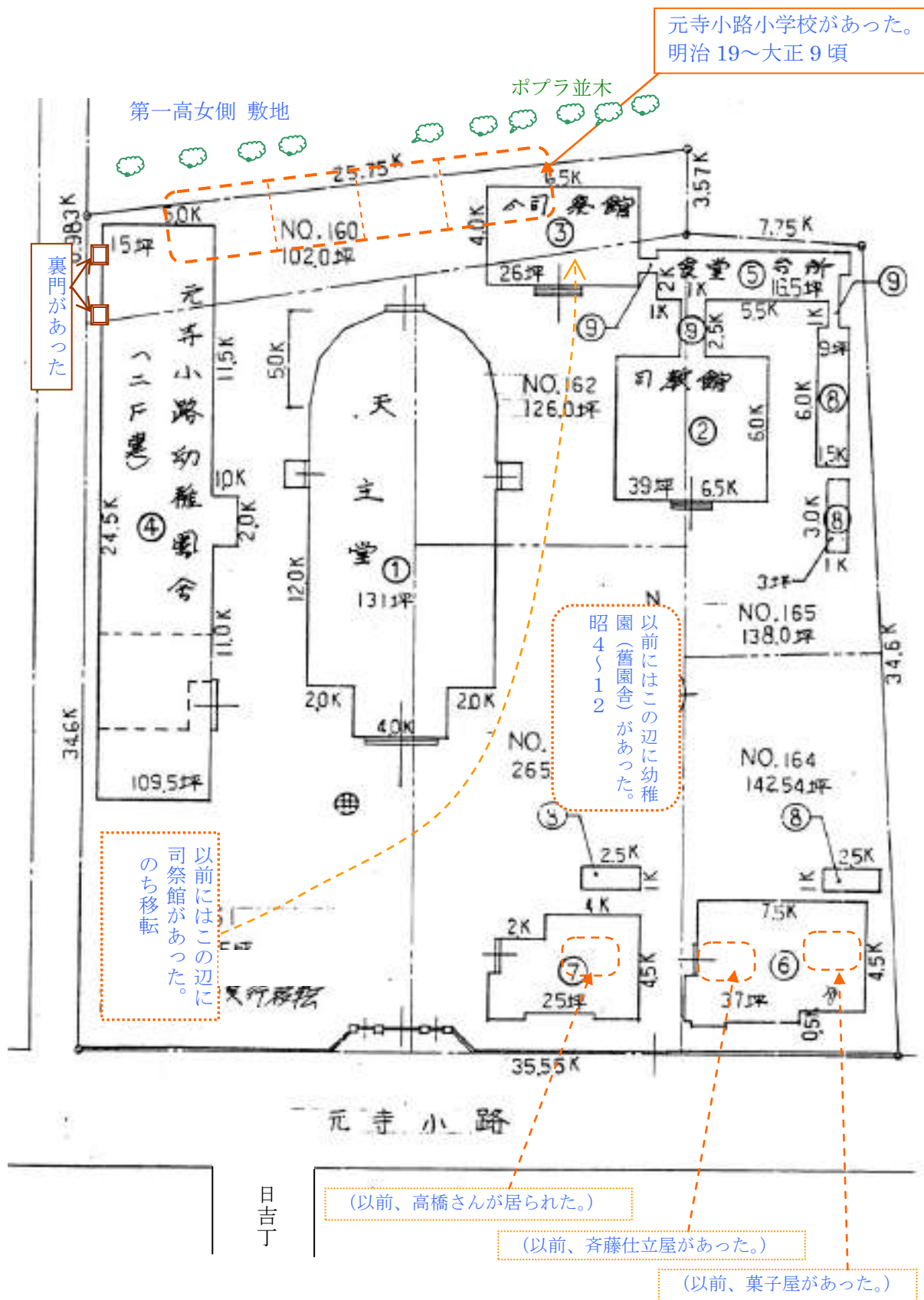
私立仙台高等女学校

県立第一高等女学校

昭和21年頃の元寺小路周辺図



終戦前の元寺小路教会 構内図



第2部 2012年10月28日

「仙台教区の歩みを語る」

終戦と教会、復興

1945年8月15日（昭和20年）終戦となりました。

連合軍総司令部は下記を発令しました。

同年11月14日 「宗教団体法」廃止指令

同年12月15日 国家と神道との分離指令

1946年1月1日（昭和21年）天皇の人間宣言

（※ ここで日本人は初めて信教と思想の自由を獲得しました。）

それまでは、次の様な状況でした。

カトリックは日本天主公教団として公認されたのですが、1939年3月（昭和14年）「宗教団体法」成立により、戦時体制強化の一環としての宗教統制のため決められた。

前回話しましたが、例えばローマ教皇と縁を切れとか、アーメンは敵国語だから使用禁止とか、ごミサで君が代を唄えとか。

それまでは天皇は神様とされていました。

私の大学の同級生が本当に天皇は神だと思っていたとか。

そのように教育されておりました。

それまでは天皇のお車が通過する時、国民は両側に並んで最敬礼、頭は上げられませんでした。二階から見ていたりしたら、お巡りさんに捕えられました。

前回空襲の頃までのお話をいたしましたが、今日は主として、その復興を中心に第Ⅱバチカン公会議前までのことを、私の家にあった写真を年次順にみながら辿って行きたいと思います。

元寺小路教会

空襲から約一ヶ月経って終戦となりましたが、元寺小路周辺一帯も焼野原となり、聖堂も司祭館もありませでした。

しかし、高橋純一先生（青年会長で幼稚園の設立に貢献）が自宅を開放され、日曜のミサはそこで行われました。

間もなくビソンネット神父さんが帰ってこられました但し住む所もないので、高橋家に泊まっておられた時期もあったようです。



高橋純一博士

この建物は現在も空堀町にありますが別の人が住んでいます。
私の家の近所なので、先日朝早く人通りの少ない時に写してきました。



この建物の1階でミサが行われました。

そこは皆の集まる場所となり、進駐軍が来てからは、米兵が来てそこで英語でカテキズムを教えてくれたりしました。

広い聖堂がないので或る祝日のミサは進駐軍と合同で行われたこともありました。当時は米軍の第9軍団の司令部が北一番町の簡易保険局でしたので、上杉山小学校の講堂で日米合同のミサが行われました。

米軍総司令部のチャペルの献堂式はビソンネット神父様、早坂師教様も司式に加わり、オルガンは清水道子先生と池田ゆり、武田敏子先生がグノーのアベマリアを歌いました。

(下表は当時のミサのプログラムです。)

MUSIC	CEREMONIES
Processional Organ	SOLEMN HIGH MASS
<u>Michiko Shimizu</u>	Celebrant Chaplain George M. Phillips
みちこ しみず	Deacon Rev. Gabriel Duchesnay, O. F. M.
Mass	Sub-deacon <u>Rev. Pierre Bissonnette, O. P.</u>
Maria Magdalena Rev. Eric O'Brien	Master of Ceremonies Rev. Br. Marcel Clébe
The Choir	Acolytes T/5 Richard Valko
Offertory Hymn	PFC Raymond Kolowich
Ave Maria Gonod	Censer-bearer T/5 Joseph Gyan
アベ マリア	Cross-bearer T/4 Joseph Horvath
<u>Toshi Takeda</u>	
とし たけだ	
Communion Hymn	
Ave Verum Corpus Mozart	
The Choir	
Recessional Organ	
<u>Michiko Shimizu</u>	Assisting Bishop
みちこ しみず	<u>Rt. Rev. Januarius Hayasaka, D. D.</u>
	早坂 司教
<u>Yuriko Ikeda, Accompanist</u>	Attendants
ゆりこ いけだ (池田まりさんのお姉さん)	Lt. John Barden
	Lt. Robert Mahoney

1946年(昭和21年)戦争中に苦しい生活を送ったカナダの大方の方々は帰国されましたが、ビソンネット神父様はすぐには帰国せず元寺小路の主任司祭となり、進駐軍から譲り受けた「かまぼこ兵舎」を改造してバラックながら仮聖堂を建立しました。

次の写真は仮聖堂の前です。

当時は道路の区画が今と違って、門は南向きで元寺小路(家具の町の続き)の通りに面していました。{現在の広瀬通りではなく。(広瀬通りは戦後に設置)}



ビソンネット神父 早坂司教



ビソンネット神父 早坂司教

1948 年（年昭和 23 年）ビソンネット神父様は、北仙台教会建設の資金集めの為に一時カナダへ帰国されました。

その頃のこととして、浦川司教様はドミニコ会以外の宣教会として 1948 年（昭和 23 年）カナダのケベック外国宣教会とスイスのベトレヘム外国宣教会を導入し、ケベック宣教会には青森県地区を、ベトレヘム宣教会は岩手県地区を、ドミニコ会には福島県を任せ、仙台市と宮城地区は邦人司祭が受け持つことになりました。

ザベリオの聖腕 「聖フランシスコ・ザベリオ 400 年祭」

この時期一大イベントは「聖フランシスコ・ザベリオ」の聖腕をお迎えしたことです。

ザベリオ様が渡来してから 400 年の、1949 年 7 月 2 日（昭和 24 年）午後 7 時聖腕が仙台駅に到着、約 2000 人が駅にお出迎え。

聖腕は浦川司教に捧持されて元寺小路教会へ、7 時半から聖体降福式が行われました。

翌 3 日（日）式典当日、午前 3 時半聖腕前で、深沢師がミサを捧げ、4 時に青年会員総出で式典会場となる白百合の校庭で祭壇作りをしました。





式典の前に聖腕は市内を回りました。

午前 9 時行進開始、参加 5000 人、M.P に先導され聖歌を歌い、ロザリオをとなえながら元寺小路、東三番町、県庁前、外記町、花京院を通り会場の白百合学園に到着。



校庭の祭壇で浦川司教によるミサがおこなわれました。







司教館

浦川司教様は弘前に疎開しておられましたが、元寺小路の司教館は空襲で焼失し住む場所がなかったため光ヶ丘のドミニコ会修道院にお住まいでしたが、1949年（昭和24年）に司教館が完成し、浦川司教様は移られました。10月16日祝別式が行われました。





その頃

その頃、築館・石巻・塩釜・亘理・白石・新生園などの教会が開設されました。また気仙沼・石巻・塩釜・築館・小さき花・聖ウルスラ・聖ドミニコ・白百合などの幼稚園が開園され、白百合(それまでは仙台高等女学校)・ウルスラ・ドミニコの小学校・中学校・高校なども新設されました。

1950年(昭和25年)ドミニコ会は裁判所前に「学生の家」を設立し、指導司祭ピシェ神父のもとで布教に大きな役割を果たしましたが、1971年(昭和46年)北仙台教会構内に新築移転、「ロゴス研究所」という名称で佐藤師(司教)が指導司祭となりました。

なお、「ロゴス研究所」は2003年(平成15年)再開され、現在「仙台ロゴス研究所」として講演会や講座などを主催しております。



1950 年 12 月 27 日（昭和 25 年）豊田神父様が叙階されました。

聖堂は天井の低い仮聖堂です。



北仙台教会

ビソンネット師は仙台をこよなく愛し、かねてから自分の手で教会を作りたいという念願を持っておられました。元寺小路教会の仮聖堂建築完了を機に教会開設の建設基金を集めるため 1948 年（昭和 23 年）、一ヵ年の予定でカナダへ帰国し、翌年仙台に戻り藤田貞蔵氏の斡旋でこの北仙台教会の位置に一千坪の土地を購入しました。

約一ヵ年掛かって 1951 年（昭和 26 年）に完工し 8 月 5 日、駐日使節マキシミアム・ド・フルステンベルク大司教の司式で献堂式が行われました。祭壇は在仙米軍将士寄贈の大理石造りです。

聖歌隊は約 100 名、更に 20 名からなる男性のグレゴリアン聖歌隊がありました。隊員の名前を見ると岩淵京子さん、ウルスラのシスターになった目黒ふくこさん阿部愛子さん、現白百合小学校校長青木千枝子さん、藤田昭夫さん貞夫さん武夫さん岡田さんのお父さんの長蔵さん、最後に石巻の議員だった日野一郎さんの名前もあります。









この一年後に、元寺小路教会が建てられるのですが、元寺小路教会は 40 年後に建て直し、現在の教会になり、それから 20 年たちました。そして震災で祭壇の壁がおちました。

それに比べて、この北仙台はこの 60 年間もとの姿のままです。

このようなしっかりした教会をご自分の力で建設されたビソンネット神父様のお力に感服します。



豊屋丁教会

1951年10月17日（昭和26年）豊屋丁教会献堂式の写真です。



戦時中教会は敵国婦人の収容所となり修道女たちが収容され、教会は閉鎖されておりました。

当時の主任司祭エグリ師は和野氏宅（和野神父の実家）に寄寓して、信者のためにミサをおこなったりしました。

終戦により開放されましたが聖堂が超満員になった時、床がミシミシと鳴り出し、聖堂建築運動がおこりました。

建設資金を得るために青年たちは十字架を作りそれを背負って北海道から九州まで販売しました。

豊屋丁のことは、山田さんにお話していただきます。

【豊屋丁教会について】

唯一の大正生まれの教会ですが、戦中・戦後、激動の一時期についてお話いたします。

1943年（昭和18年）

- ・敵性外国人（宣教師・修道女）の収容・軟禁開始。

教会・修道院の接收が始まりました。… 元寺小路教会・司教館・司祭館が接收

- ・豊屋丁教会：「閉鎖」… 塀で囲まれ封鎖され、外国人修道女（聖ウルスラ会・

善き牧舎会・被昇天会) など修道女26名が収容されました。・・・6月～

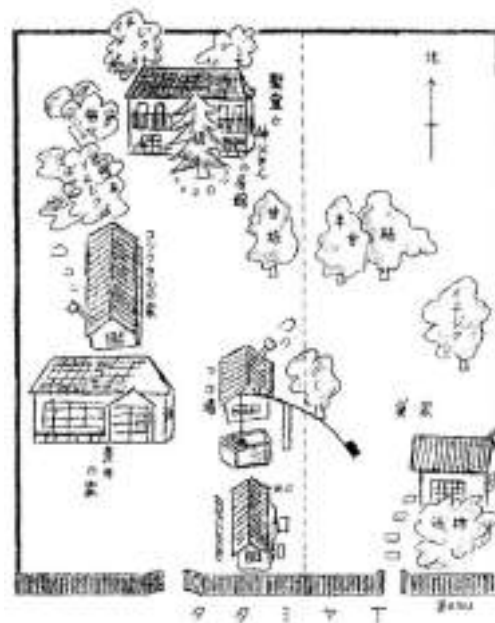
1944年(昭和19年)

- ・教会の祭具等供出、司祭・修道者とも勤労働員に出勤
- ・元寺小路教会：司教館・司祭館が接収され、敵国人収容所となりました。
(ドミニコ会司祭・修道士 → 後、浦和埼玉抑留所に移る)
- ・畳屋丁教会：「閉鎖」…(外国人修道女) 聖ウルスラ会・善き牧舎会・被昇天会
など修道女26名が収容
- ・畳屋丁教会「主任司祭」：エグリ神父・・・一時、和野氏宅に身を寄せました。

1945年(昭和20年)

- ・この難局に島田神父は、北五十人町より畳屋丁教会に通われました。
- ・仙台空襲・・・1945年7月10日 仙台市中心部が爆撃される。
元寺小路教会聖堂、司教館、司祭館、聖ポーロ会、白百合学園、ドミニコ女子
修道院など焼失してしまいました。
- ・8月、日本は敗戦し終戦となりました。
- ・収容所：「解散」・・・8月終戦となり秋、収容者が解放されました。
- ・空腹とシラミに悩まされながらも、自由を満喫できる。
何処の教会も求道者で一杯に、神父は朝から晩まで応接に追い廻され、ボロを
まといカユをすすり、芋をかじり、寒さで手をこすり、公教要理を教え学びまし
た。(安楽になると人は墮落) … 「むぎつぶ」の回顧録から

《開設当時の畳屋丁の様子》



カトリック畳屋丁教会の沿革

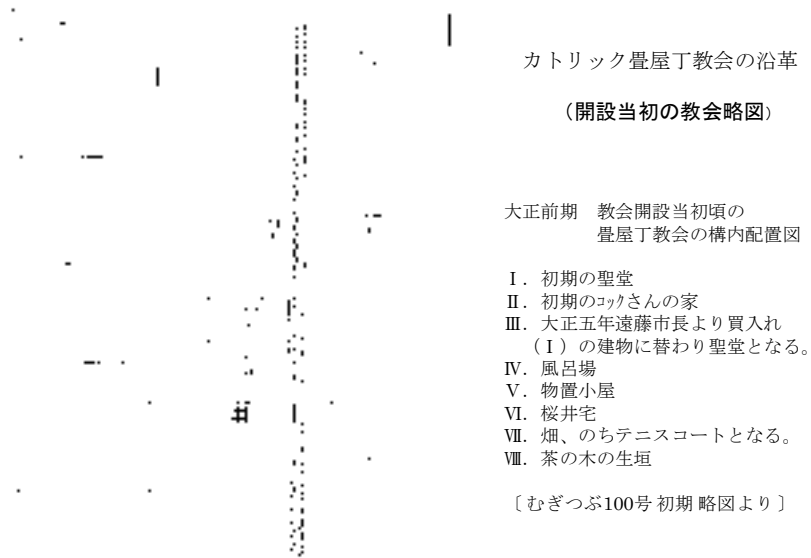
(1919年(大正8年)頃の
畳屋丁教会)

※ 教会の開設1916年(大正5年)

(出典：第三号(月刊) 畳屋丁教会機関誌
1950年3月20日発行より 転載)

同号：「生いたちの記(一) 佐藤直助 氏
◇敷地と建物」の記事より、氏が
大正八年頃に日曜学校へ通い始め、
その頃の思い出として画かれてい
るスケッチである。

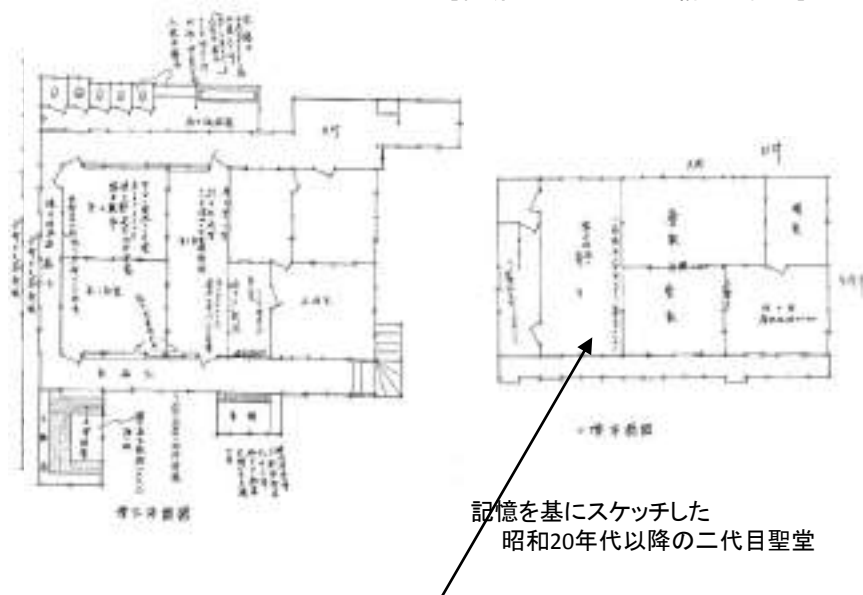
《開設当時の畳屋丁の図面》



《畳屋丁教会の聖堂・司祭館・集会室等の図面》

カトリック畳屋丁教会の沿革 (昭和20年代以降の聖堂・司祭館)

[初期(二代目聖堂)の構内配置図]



- ・戦後、急に人が増え手狭になったので2階全部を聖堂にすべく改装しました。

(古い畳屋丁の教会の全景を写した写真が見当たらないので、一部正面を写した写真を次に示します。)



1946年（昭和21年）

- ・聖ウルスラ会修道女は…カナダに一時帰国しました。
その跡を白百合学園が校舎として使用ことになりました。
（木ノ下修道院を借りて、その小さな修道院の屋根裏まで生徒がすし詰めにされて、机もなく板の間に座って勉強する、という状態であった。）
- ・駐留軍の苦竹キャンプの日曜ミサに聖歌隊を派遣し、献金を集めるなどしました。
- ・教会改造用材として、多賀城の旧兵舎1棟を貰う。
- ・昭和21夏、2階の改造を実施（主に青年達の勤労により）しましたが、日曜日2階聖堂後部で床が、ミシミシ鳴り出し、慌てて皆が飛び出したりもしました。そこで、新聖堂建設が是非必要となり、信徒が「募金運動」を始めることになりました。

1947年（昭和22年）

- ・聖ウルスラ会修道女（5名）：再び来仙し、修道院を復興、家庭学校を開設
- ・昼屋丁教会「主任司祭」：深沢 豊治 神父
- ・昼屋丁教会報：「麦粒（むぎつぶ）」創刊（深沢師により）
- ・新聖堂建設計画が具体化していきました。

1948年（昭和23年）

- ・聖ウルスラ幼稚園会開園し
- ・仙台高等女学校→「仙台白百合学園」と校名を改める。
校章も「梅の花」→「白百合」へ変える。
- ・昼屋丁教会：この頃、各会活動が活発であった
{ヨゼフ会、婦人会、青年会、姉妹会、ザベリオ会、二女高グループ、小百合会（白百合学園）、アンジェラ会（ウルスラ会で教理研究）}

1949年（昭和24年）

- ・フランシスコ・ザベリオ400年祭 「フランシスコ・ザベリオの聖腕」仙台に来る。
1949年7月2日、白百合学園にて荘厳に野外ミサが挙行されました。
- ・元寺小路教会：新司祭館落成
- ・昼屋丁教会「主任司祭」：2月 深沢 豊治 神父 → 児山六七男神父
- ・昼屋丁教会報：「麦粒（むぎつぶ）」復刻創刊号 発刊（門岡安男氏により）
- ・昼屋丁教会：聖堂建設資金の為、「十字架作り」盛んに行なわれる。
- ・「十字架作り」・・・昼屋丁教会：総力をあげて取組む。
差当り3000本を作り、全国に売込む
青年・学生達が北海道から九州までリュックに背負い売り歩く（夏休みや休暇、利用）・・・日本国中の教会・修道会家庭に！（聖具の払底していた時代、売れ行きは上々。）評判がよく、中央出版社にも堅牢・優美・格安と云われた。
- ・昼屋丁教会の司祭館等は、十字架製作の町工場と化す。！
（チャーチ・ファクトリーとも称す、朝から晩まで槌音が響く。）
＊ 十字架の木材は会津若松の信者の職人に、木組みは山形、ラッカー塗りは仙台の工場で、御像は東京の深沢神父の知人から取り寄せ、打付け組立ては青年姉妹会が昼屋丁教会で行った。
- ・婦人会・姉妹会は聖作品、食堂、その他バザーを開き、利益を建設資金に回す。

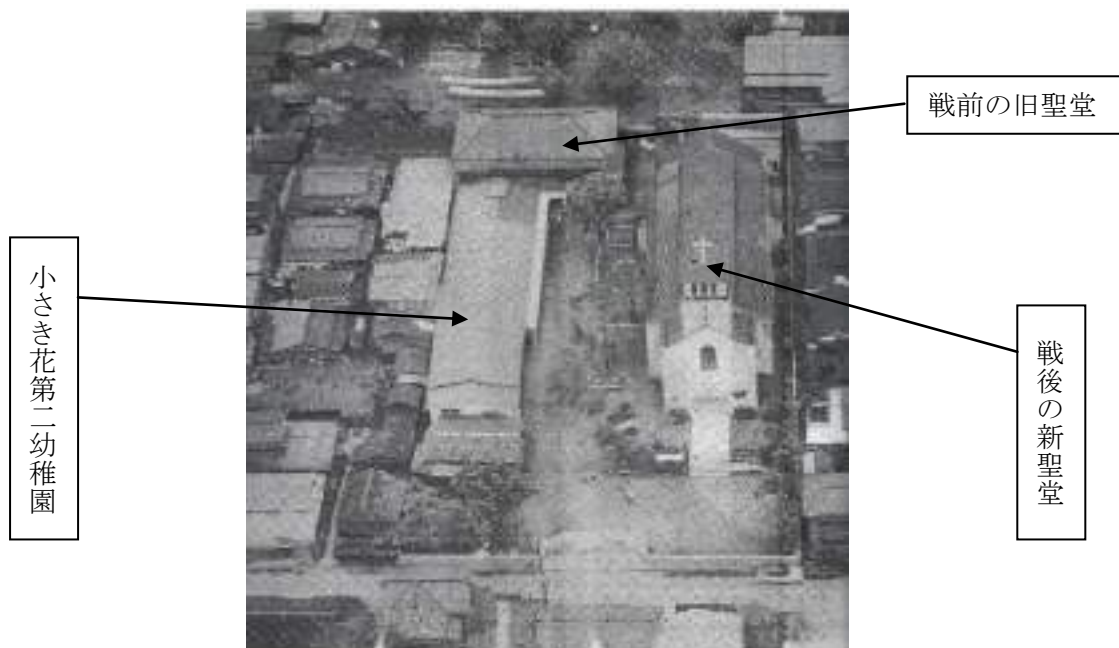
1950年（昭和25年）

- ・聖ウルスラ学院小学校開校
- ・仙台カトリック青年会連盟発足（初代委員長 竹内正也氏）
- ・畳屋丁教会：新聖堂の「定礎式」12月
- ・聖ヴィンセンシオ ア パウロ会 発足
- ・在仙：野球大会が盛んに浦川司教杯争奪（青年達により）



1951年（昭和26年）

- ・2年間集めた資金を持って、浦川司教を訪ね援助を願った。浦川司教は5千ドルを支出。
- ・畳屋丁教会：「新聖堂」献堂式（浦川司教司式 1951年10月17日）
浦川司教は「仙台で信者等の働きで建った聖堂はここが初めてだ」と喜ばれた。





1952年（昭和27年）

- ・司教座聖堂：献堂式（9月23日元寺小路）
- ・「むぎつぶ」：青年たちの手でガリ切りとなる。（ガリ版刷り：孔版印刷）

1953年（昭和28年）

- ・ボーイスカウト：発隊

1954年（昭和29年）

- ・「仙台教区長」・・・浦川 和三郎 司教引退（3月）（北海道へ）
→ 小林有方師 就任（5月司教叙階）
- ・アデライト修道女来日：ウルスラ会院長となる
- ・昼屋丁教会「主任司祭」：6月 児山 六七男神父 → 島田 実 神父
- ・レジオマリエ：発足

1955年（昭和30年）

- ・小さき花第二幼稚園 開園 1955年4月
（現在の「小さき花幼稚園」へと継承されます。）

《その後、更に改築（平成4年）
され、現在の昼屋丁教会と
なります。》



元寺小路教会

空襲で焼失したカテドラルがようやく再建することになり、まず1952年（昭和27年）の復活祭の日に定礎式が行われ、9月23日聖堂祝別及び祭壇聖別式がフルステンベルグ大司教の司式により行われました。



聖堂内の両壁面の十字架道行は船越保歩氏の作品で、現在は東京初台の教会にあります。



なおこの絵の費用は常盤木学園で行われた江藤玲子さんのピアノリサイタルの収益金によるものです。

江藤玲子さんと呼ばれたのは現常盤木学園校長・松良千廣氏のお父さんが音大の教授時代の教え子だったからとのこと。

教会再建のために信徒が一丸となって働きました。









小林司教様

1954年（昭和29年）浦川司教様が勇退され、後任に大阪教区から小林有方師が任命され、5月3日司教に祝聖されました。

司教様は特に米川ではたびたびキリシタン講演会を開催し、邦人司祭の協力のもと強力な布教を展開し、1955年7月10日（昭和30年）町民175名の集団改宗者を出し、続いて3年間で334名の改宗者をだしました



▲小林司教司祭叙階25周年記念祝賀会
【昭和35年】

マリア祭

1954.8.29 ごミサの後、マリア様を担い白百合へ。校庭の祭壇でベネディクション、斉藤神父様の説教がありました。

写真のように大勢参加しました。





聖体行列

1954年10月17日、小林司教様が御聖体を捧持して白百合まで行列し、校庭の祭壇でベネディクションがありました。



＊ ここで前回お話したことで言い足りなかったことを追加します。

浦川司教様

話しの中に浦川司教様の名前がでてきますが、浦川司教様をご存知の方は少ないと思いますが、レミュー司教様の次の仙台教区の最初の邦人司教です。

昭和 15 年から 16 年にかけて日本の戦時体制が強化され、ローマ教皇庁では邦人教区長を任命し、昭和 16 年 1 月仙台教区長として長崎公教神学校長であった浦川和三郎師が任命されました。

戦争が始まると直ちに司教館は警察にとられて幼稚園の二階に移られました。
ある日、司教様のもとに憲兵隊から出頭命令がきて、お出かけになりましたが、5～6 時間経って薄暗くなった頃憔悴してお帰りにになりました。

司教様は沢山の著書を出されていますが、其の頃出版された東北北海道キリシタン史の中にあった函館、湯の川付近の写真が要塞地帯だからとのことで、実のところは嫌がらせでした。

仙台も危なくなってきたので、司教様は弘前の教会に疎開していただきました。

先日 9 月 2 日、浦川深神父様という方が浦川司教様のお墓参りに来られました。

神父様とご両親と妹さんの 4 人でした。その神父さんは浦川司教様のお姉さまのひ孫にあたられるとのことでした。

神父さんのお母さんは原爆で司教様の著書は何もないとのことでしたので、私の家にあった本をおあげしたら大変よろこばれ、其の後のお手紙に、司教様の遺品として従兄弟の方にも本をお分けしたとのこと、其の中の一人の方は被災者のために義援金を送ってくださいました。

司教様は厳粛な方でお話など出来ないような方でしたがこんな写真もあります。周りの人を見て下さい。





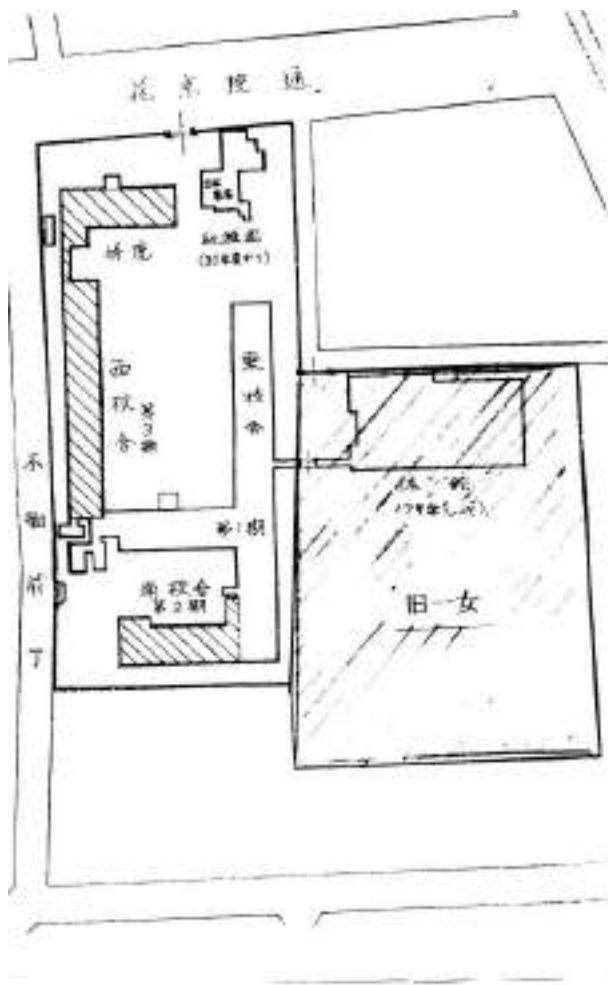
現東北電力本社ビル東側の道路に面した花壇の中に二つの石碑があります。

右の石碑には仙台白百合学園発祥の地
・1893 明治 26 年、広がる愛未来へ。

左側の石碑には宮城県第一高等女学校
跡地 1899 明治 32 年 9 月～昭和 45 年
8 月と刻んであります。

空襲前にはこの地に学校が二つあり
ました。両校とも空襲で焼き尽くされ
ました。どちらも学校の敷地としては
狭いものでしたので、どちらかを移転
しなければならないような状況でした。

当時は一番偉いのはアメリカ占領軍
でしたので、ビソンネット神父さんは
アメリカ軍の“お偉い”さんに働きか
けて白百合が花京院にとどまることが
できるようにし、更に一女の土地を白
百合にゆずってもらうことが出来たの
でした。



早坂久之助司教

前回でもお話しましたが、もう少し詳しくお話いたします。

司教様は1883年9月16日（明治16年）のお生まれで19日に受洗されました。

早坂家が信者になったのはお父上が八百屋さんで、教会のコックさんとお友達になったのがきっかけでした。

なお、この父上と土井枢機卿の父上が従兄弟で、土井家を教会に導いたのもこのお父さんです。

元寺小路の主任司祭ジャッケ神父の感化で司祭を志し、15歳で上京し小神学校で学び、中学卒業後仙台の旧制第二高等学校に合格、仙台神学校から二高に通学。卒業と同時に日本人最初のプロパガンダ・ウルバノ大学の留学生となりました。

1911年（明治44年）司祭に叙階され、同年8月に帰国され、弘前、大河原、気仙沼、元寺小路で司牧にあたられました。

1911年（大正10年）新駐日ローマ教皇使節は、早坂師を使節付秘書に抜擢されました。

師は皇居における午餐会や皇族や高官の昼餐会に招待された使節の秘書及び通訳として同行同席されました。

1927年10月30日（昭和2年）

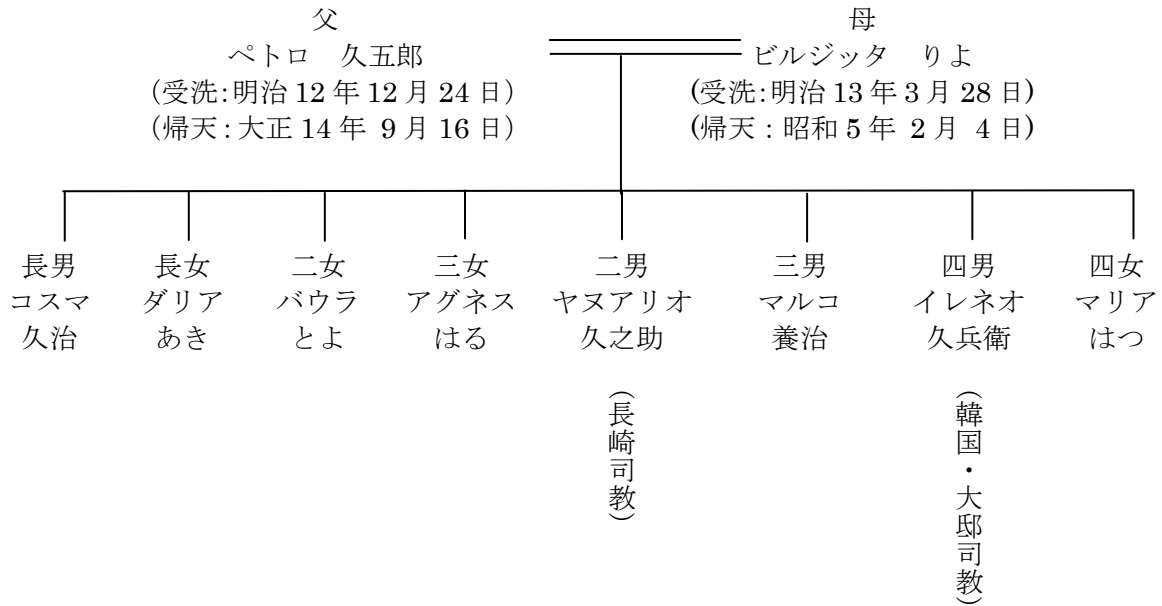
「王たるキリストの大祝日」に
聖ペトロ大聖堂において
教皇ピオ十一世自らの手に
よって日本人最初の司教に
叙階されました。

其の後5ヶ月に亘って欧米の旅にでられましたがその歓迎ぶりは、パリではノートルダム大聖堂では数千人が参列して日本人司教の誕生を祝いました。

アメリカではルーズベルト大統領夫妻が駅頭まで出迎え、自動車に同乗してホワイトハウスに迎え入れたとのことで、日本からの皇族、大臣、知名人の訪米でも早坂司教ほどの鄭重な歓迎を受けた者は一人いなかったそうです。



早坂家の家族構成



明治三十八年 (久之助ローマ留学にあたっての家族写真)

(写真説明)

後列 (向って左より)	三男 養治	二男 久之助	四男 久兵衛	長男 久治
中央 (向って左より)	長女 あき	母 りよ	父 久五郎	
前列 (向って左より)	二女 とよ	四女 はつ	三女 はる	

参考資料

- ・早坂養吉氏所蔵の写真と「早坂家の系統図」プリント
- ・山口キヌエ編著「Vocation 神の招きに応えられた長崎純心聖母会創立者『早坂久之助』」(前掲)



早坂久之助司教（兄二男）、早坂久兵衛司教（弟四男）

— 元寺小路教会（ルルド前） —

以上

附 録

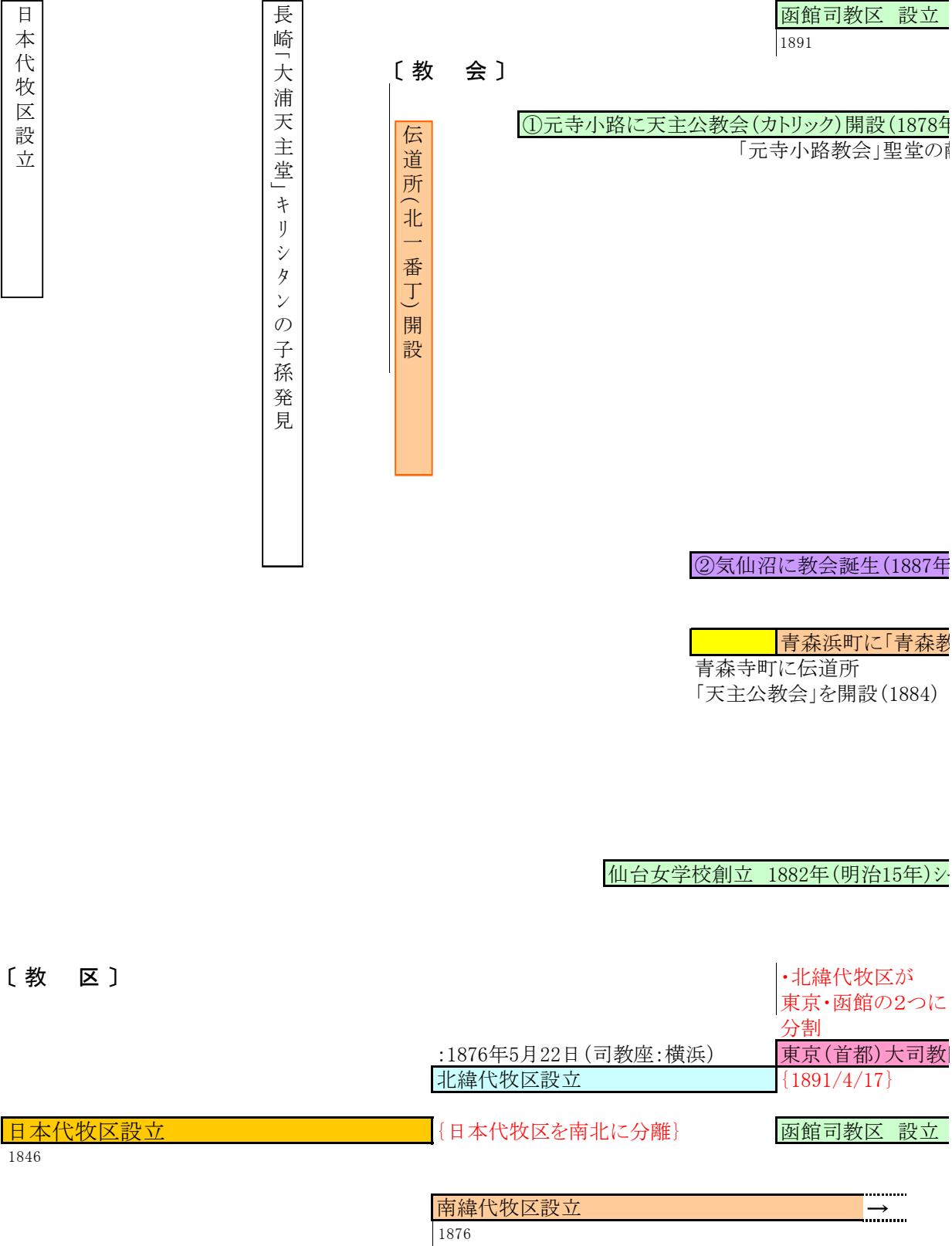
附 録

1. 仙台教区の歴史線表（明治～2010 年 宮城県仙台を中心）
2. 仙台教区の歴史年表（仙台教区設立～第Ⅱバチカン公会議）
3. 仙台教区初代司教
マリー・ヨゼフ・レミュー司教の教書
4. ザベリオ渡来400年祭に関しての
マックァーサー元帥の特別声明
5. ビソネット師の北仙台教会に於ける
最後のミサの説教

※ この附録は、「仙台教区の歩み」の時代背景・歴史的な背景を表し、池田講師のお話がより理解を得られ易く身近なものに資するための参考資料として添付します。

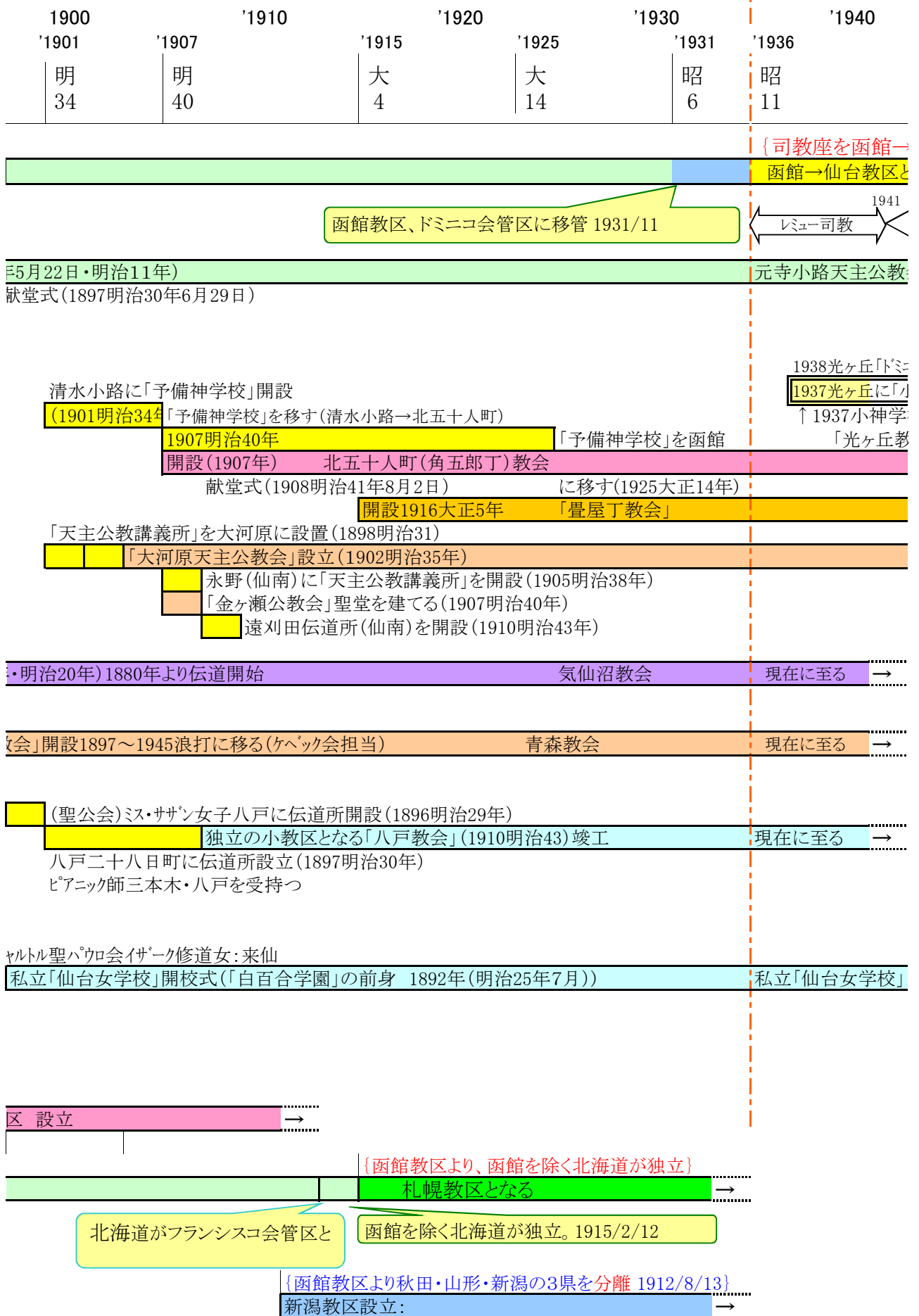
	'1850		'1870		'1880		'1890
'1846		'1865	'1873	'1878	'1882	'1887	'1891
弘化 3		慶応 元	明 6	明 11	明 15	明 20	明 24

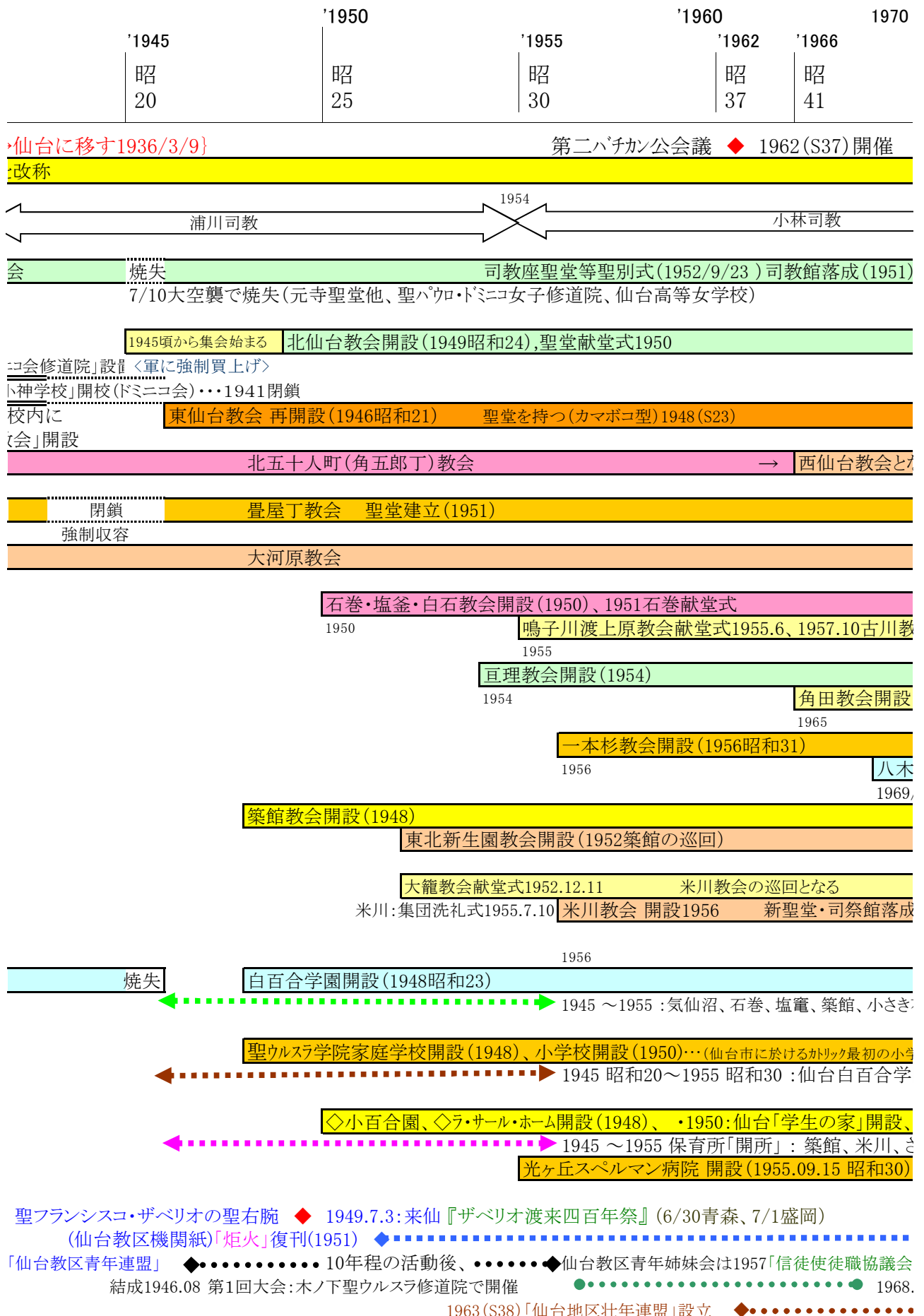
{北緯代牧区～東京・函館に分割 1891/4/17}

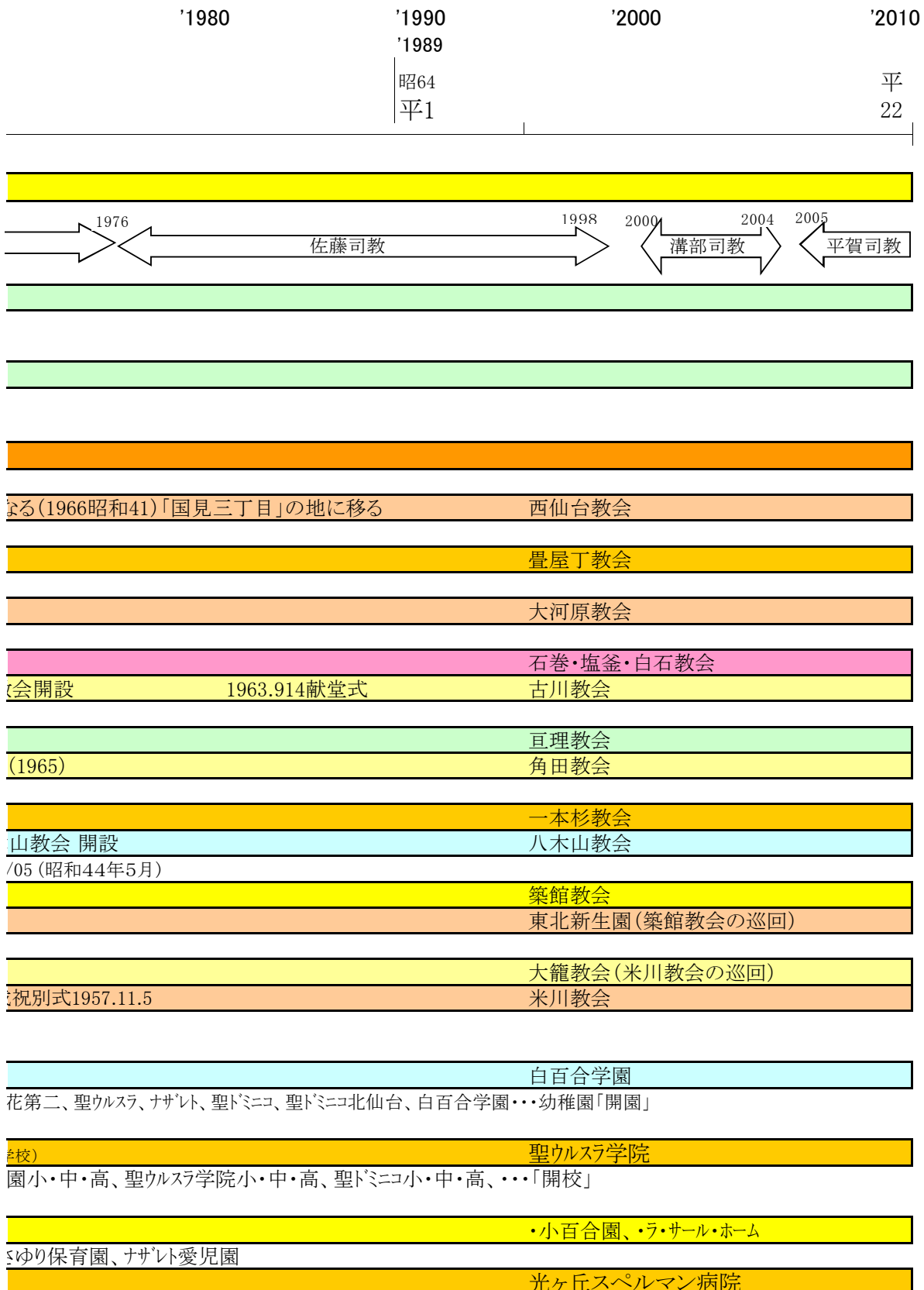


仙台教区史線表〔誕生～変遷(前期)〕

(附録:参考添付資料)







」に吸収
 .9.12(昭43)仙台教区信徒使徒職協議会構想を小林司教が白紙に戻す。

『仙台教区の歩み』（仙台教区史年表）

西暦	(和暦) 出来事	仙台教区長、司祭 (元寺小路・畳屋丁)
1873	(明治6)年 ○北一番丁に伝道所 開設	
1878	(明治11)年 ☆元寺小路に天主公教会 開設 (5月22日)	初代:ブロラン師
1887	(明治20)年 ☆気仙沼教会誕生…1880年～伝道(ルマルシャン師)、1909年現在地に移転聖堂落成	初代:コシェリー師
1901	(明治34)年 ○清水小路に予備神学校 開設 → 後、1907年角五郎丁(北五十人町)に移る。	初代校長: ジャック師
1902	(明治35)年 ☆大河原に天主公教会 開設 …最初の巡回は1883年(ルマルシャン師)	初代:ジャック師
1907	(明治35)年 ☆ 北五十人町(角五郎丁)教会 開設 聖堂献堂式(8.26) →※ 後、西仙台教会となる。→1977年、現在地に移転	初代:デフレンヌ師
1916	(大正5)年 ☆畳屋丁教会 開設 (唯一の大正生まれの教会)	初代:モンターグ師
《 仙台司教区の誕生～第二ヴァチカン公会議 》		
1936	(昭和11)年 ※ 仙台司教区の誕生 ローマ聖庁から許可を受け司教座を函館から仙台に移し、 「 仙台教区 」と改称する。(3月9日) ・初代仙台教区長に任命 マリー・ジョセフ・レミュー師(4月10日) ・マリーヨゼフ・レミュー師が司教叙階 (6月29日、元寺小路教会) ・仙台に聖ウルスラ修道会修道女3名来日 (ドミニコ修道女会の修道院に仮寓) * 二・二六事件 * 日独伊防共協定	初代仙台教区長: マリー・ジョセフ ・レミュー司教 (1936-1941) 元:ビソネット師 (1831-1941) 暁:パウロ・エグリ師
1937	(昭和12)年 ○仙台光ヶ丘に「小神学校」(ドミニコ会)開校 (1937-1941) (校長:デロリエ師) ☆光ヶ丘教会の黎明期 初代:ディオンヌ師 (教会堂も司祭室もなし、小神学校礼拝室で主祝日のミサ) (一般的には東仙台教会の開設とされている場合もあるが、ドミニコ会士が教会を作ることを熱望し、小神学校内で集会を行った。)	

	○アンジェの善き牧者愛徳の聖母修道会 開設 (カナダから修道女3名来日) 児童養護事業開始	
	○聖ウルスラ修道会、北四番丁に修道院 設立	
	* 日中戦争(日華事件)勃発	
1938	(昭和13) 年	
	○仙台光ヶ丘に「ドミニコ会修道院」 開院 定礎式(1938.9.7)	
	・東仙台的集会在光ヶ丘ドミニコ会修道院内に移る。 (修道院を借りて集会やミサを行う。)	
	☆光ヶ丘教会の御聖堂開き…昭和 13 年 8 月 4 日 …教会の名称は光ヶ丘教会…「たいまつ」の記事より (元寺小路幼稚園の園舎校)を移築、その1室14畳を聖堂に改装する。)	
	※光ヶ丘教会…昭和 16 年太平洋戦争の開戦と昭和 18 年の軍による修道院等の強制買上げにより、活動が困難となり消滅してしまう。	
	* 国家総動員法公布	
1939	(昭和14)年	
	・光ヶ丘「ドミニコ会修道院」 落成式(1939.10.5) …「炬火」と「オリエンス」の発刊など礎を築いた。	昼:早坂久兵衛師
	・聖ウルスラ修道会、仙台木ノ下に修道院 設立 (北四番丁から移転)	昼:ヴァンサン・プリ オット師
	* アメリカ通商条約破棄通告	
	* 宗教団体法 成立(3月平沼内閣)	
	* ”第二次世界大戦” 勃発 ※1939/9/1,ドイツのポーランド侵攻	
1940	(昭和15)年	
	・仙台北五十人町、ドミニコ女子修道院全焼(1940.4.27)	昼:ラヌー師
	・信徒発見100年祭行われる。	昼:早坂久兵衛師
	* 「日独伊三国同盟」成立	
	* 大政翼賛会成立	
1941	(昭和16)年	
	・ 第二代 仙台教区長 : 浦川 和三郎 司教 ← レミュー司教交代 (1月16日)	教区長: 浦川和三郎司教
	・仙台 … ビソネット神父、開戦により収容	元:貝沼保師
	・光ヶ丘「小神学校」(ドミニコ会)閉鎖←時局の情勢により	(1941-1942)
	・秋頃より教区受難の時代が始まる。 ・外人司祭(枢軸国関係を除く)修道女等の収容所生活が始まる。	昼:ピエール・ビソ ネット師
	○聖ウルスラ修道会 あずま幼稚園 創設 (仙台木ノ下)	
	* 日英米開戦”(太平洋戦争)12月8日 (日本が真珠湾攻撃)	
	* 米穀配給通帳制実施	
	* 日本天主公教団として認可	

1942	(昭和17)年	
	・早坂久兵衛師、朝鮮大邱教区長となり、司教に祝別されて赴任	元:貝沼師→郡山 元:小野忠亮師
	・貝沼師、郡山へ転任 小野師主任となる(元寺小路)	(1942-1943)
	* 「日独伊三国軍事協定」調印	暁:パウロ・エグリ師
1943	(昭和18)年	
	・浦川和三郎師「仙台教区長」に着任(1/16) 司教叙階 (1/18)	元:小野師→函館
	・ルミュ司教、カナダに帰国	元:島田実師
	・エグリ師、一時和野氏宅に身を寄せる。	(1943-1944)
	・「元寺小路教会」の司教館・司祭館が「接收」、敵国人収容所となる。(敵性宣教師修道女の軟禁開始)	
	・ドミニコ会司祭と修道士は仙台収容所に入り、後、浦和埼玉抑留所に移される。	
	・暁屋丁教会「閉鎖・封鎖」(6月) :被抑留者を収容 (外国人修道女)	暁:(司祭:不在)
	・暁屋丁教会の司祭館に聖ウルスラ会、善き牧者会、被昇天会の修道女 26 名が収容された。	
	・善き牧者会修道院も「接收」で抑留所。・・・聖ウルスラ会,聖ドミニコ会,聖母被昇天会,善き牧者会,等収容	
	・聖ウルスラ会修道院、 旧日本陸軍により「接收」→ 電信教習所	
	・聖ドミニコ会修道院・小神学校(光ヶ丘) 旧日本陸軍により「強制買収」→ 陸軍造兵所	
	* 大東亜宣言	
	* 学徒出陣	
1944	(昭和19) 年	
	・教会の祭具等供出、司祭・修道者とも勤労働員に出勤	元:深沢豊治師
	・島田師→教区会計として、元寺小路教会に住む。	(1944-1945)
	・暁屋丁教会「閉鎖」	暁:(司祭:不在)
	* 学徒の集団疎開	
	* サイパン島上陸	
1945	(昭和20) 年	
	・深沢豊治師、応召となる。	
	・島田師、北五十人町より暁屋丁に通う。 (不便なので一時和野氏宅に仮住まい。)	暁:(司祭:不在)
	・仙台空襲で教区中心部を 焼失 (7月 10 日) (市中心部 B29x100 機程、焼夷弾爆撃)	
	・元寺小路教会・天主堂・司教館・司祭館・幼稚園、聖ポーロ会、白百合学園、ドミニコ女子修道院など建物 全焼	
	・元寺小路教会が 焼失 : 日曜日のミサは、空堀丁の高橋純一博士宅で深沢師と島田師が交代で行った。	
	・8 月終戦となり、秋、収容者 解放される。(収容所解散)	

	・深沢師復員して、島田師と共に畳屋丁に住む。(9月)	
	・島田師、函館元町教会へ転出。 深沢師が畳屋丁教会の主任司祭となる。(12月)	畳：深沢豊治師
	・畳屋丁：信徒・求道者増加、 聖堂が手狭になり → 二階全域を聖堂に改築！ …しかし、日曜日ミサ中に聖堂がミシミシ → 新築計画策定	
	* 沖縄日本軍全滅	
	* 広島市に原子爆弾投下(8月6日)	
	* 長崎市に原子爆弾投下(8月9日)	
	* 日本政府 無条件降伏(ポツダム宣言受諾8月14日)	
	* 終戦(8月15日)	
	* 宗教団体法廃止(国家と神道の分離指令)	
	* 国際連合 公式発足(1945.10.24)	
1946	(昭和21)年	
	・聖ウルスラ会修道女カナダへ一時帰国、その跡を白百合学園が校舎として使用	
	☆東仙台教会(再開設) …(S12頃「小神学校」内に光ヶ丘教会誕生…旧陸軍によりドミニコ修道院など接收…教会活動不可)	
	・ビソネット師、元寺小路教会の仮聖堂をつくる。 (カマボコ兵舎資材：改装)	元：ビソネット師 (1946-1948)
	・「仙台教区青年連盟」結成 第1回大会を聖ウルスラ木ノ下修道院で開催(8月)	
	* 日本国憲法公布	
1947	(昭和22)年	
	○聖ウルスラ修道会修道女5名が再び「来仙」、修道院を復興	
	・畳屋丁教会報「麦粒(むぎつぶ)」創刊(深沢師)	
	・畳屋丁教会聖堂：新築計画 →資金集め盛んになる。→ 十字架づくり s23～s24	
	* 教育基本法公布	
	* 初の知事・市町村長公選	
1948	(昭和23)年	
	☆築館教会 開設	
	○学制改革に伴い中学校・高等学校を併設し、 仙台高等女学校 → 「仙台白百合学園」と校名を改める。 校章も「梅の花」 → 「百合の花」にかえる。	元：デロリエ師 (1948-1949) 元：ビソネット師
	○聖ウルスラ学院 家庭学校 設立 (聖ウルスラ修道会)	一時帰国
	○小百合園(養護)、ラ・サール・ホーム(養護) 開設	
	・東仙台教会 独立した聖堂を持つ(カマボコ兵舎を改装)	
	・カナダのケベック会に青森県、ベトレヘム宣教会に 岩手県、ドミニコ会に福島県を担当させる。	

1949	(昭和24)年	
	・「 フランシスコ・ザベリオ 400 年祭 フランシスコ・ザベリオの聖腕、仙台に来る。	元：デロリエ師 → 九州福岡へ
	1949/7/2 白百合学園にて野外ミサ、荘厳に行われる。 (終戦直後の日本の教会にとって最大のハイライト、華々しく行われた。)	元：深沢豊治師 (1949-1950)
	・元寺小路教会 新「司祭館」落成	暁：児山六七男師
	☆北仙台教会 開設 (1945 年頃から集会が始まる)	
1950	(昭和25) 年	
	・元寺小路 新「司教館」完成(夏頃) 浦川司教が光ヶ丘ドミニコ修道院から移住	
	・仙台、青年たちにより「聖ヴィンセンシオアパウロ会」発足	
	・「仙台カトリック青年会連盟」 発足。 {初代委員長：竹内正也氏}	元：深沢師→ 函館元町へ
	○ドミニコ会：仙台に「学生の家」開設 5 月竣工(指導司祭：ピシェ師)	元：斉藤石雄師 (1950-1953)
	○聖ウルスラ小学校 開校 (仙台 木ノ下)	
	○ナザレト修道女会始まる。(浦川司教創立)	
	☆石巻教会 開設(12月)	
	☆白石教会 落成式 (12月8日) ：「大河原教会」の巡回教会となる。	
	☆塩釜教会 開設 (教会堂等なし、信徒宅でミサ：巡回) …巡回集会が昭和 22 年頃から始まる。	
	* “朝鮮動乱” 勃発	
	* 警察予備隊設置	
1951	(昭和26) 年	
	・石巻教会 献堂式(4月5日)	
	・仙台教区機関紙「 炬火(たいまつ) 」復刊	
	・北仙台教会 聖堂 献堂式(8. 1) 司式：教皇庁駐日使節フルステンベルグ大司教	
	・豊屋丁教会 第三代聖堂 献堂(10. 17)	
	・塩釜教会・・・塩釜市江尻の信徒宅(仁科氏)に集会所を 移し、仮聖堂を持つ(S26.12)	
	* 対日講和条約締結	
	* 日米安全保障条約	
1952	(昭和27) 年	
	・ 函館と渡島地区 が仙台教区から分離され 札幌教区に編入	
	・「白石教会」は大河原の巡回から独立教会に。 深沢守三神父が着任(1月)	
	・司教座聖堂 献堂並びに祭壇祝別式 9 月 23 日 (元寺小路) 司式者：駐日ローマ教皇使節フルステンベルグ大司教、説教者：浦川和三郎司教	
	・塩釜教会 聖堂 献堂式(10月4日)(永田徳市師)	

	☆大籠教会 聖堂献堂式(12.11) (岩手県担当スイス・ベトレヘム会、初代主任司祭:ストックエル師)	
	☆東北新生園教会(築館教会の巡回)を開設	
	* 日本とバチカンとの正式外交関係が確立され、教皇使節は公使となる。	
	* メーデー事件(皇居前広場)	
1953	(昭和28)年	
	・深沢師→亙理教会の主任となる。	
	○聖ドミニコ学院 創立 聖ドミニコ学院小学校(仙台)開校	元:斉藤師→気仙沼
	○「大河原カトリック幼稚園」が無認可で発足(4月)、翌年3月認可される。	元:平塚秀雄師 (1953-1963)
	・東北新生園教会 聖堂献堂(7月5日)	
	* 朝鮮戦争終結(休戦)	
	* NHKテレビ放送開始	
1954	(昭和29)年	
	・第3代仙台教区長:小林有方師 ← 浦川司教引退(3月)	長:小林有方司教 (1954-1976)
	・小林有方師 司教叙階(5月3日)	
	☆亙理教会 開設(深沢豊治師)	暁:島田実師
	・アデライド修道女来日、聖ウルスラ会院長となる。	
	○「金ヶ瀬愛児園」が無認可で発足 翌1955年3月10日認可 金ヶ瀬カトリック幼稚園 開園式	
1955	(昭和30)年	
	・米川教会:集団洗礼式 ・・・米川・大籠の殉教地巡礼行わる。	
	・小林司教、ホイペルス師、只野淳氏の三人を講師とする「布教講演会」を仙台市公会堂で開催、その後30回の信仰講座開く。	
	○暁屋丁「小さき花第二幼稚園」開園(4月)	
	○光ヶ丘スペルマン病院 開院(9.15)	
1956	(昭和31)年	
	☆米川教会 開設(斉藤石雄師) 聖マリア保育園兼仮聖堂落成(3.16)	
	☆津谷教会 開設(永田徳市師)	
	☆一本杉教会 開設(7月:フォレー師来仙) (暁屋丁教会から分かれる。)	
	☆古川教会 開設	
	○聖ウルスラ学院中学校 開校(仙台 一本杉)	
	* 日ソ共同宣言	
	* 国際連合:日本加盟(1956.12.18)	
1957	(昭和32)年	
	・米川教会 新聖堂・司祭館 落成祝別式(11月5日)	

	・ウルスラ会日本管区となり、アデライド管区長 任命(3月) ・ナザレト修道女会が大阪聖ヨゼフ布教修道女会と合併、合併後の名称は聖ヨゼフ布教修道女会 ・仙台:世界カトリック修道院展開催 (於:白百合学園) ・仙台教区青年姉妹会が発展的解消をし、仙台教区信徒使徒職協議会に吸収された。 ・仙台教区信徒使徒職第一回大会が、十和田湖畔の十和田博物館ホテルで開催された。(7月) ○聖パウロ女子修道会 仙台に修道院 開設(11.6) ・一本杉教会 聖堂・司祭館11月完成 献堂式 (12月3日 聖フランシスコ・ザベリオの祝日) * 世界最初の人工衛星 (スプートニク)が打上げられる。	
1958	(昭和33) 年	
	・ドミニコ会に布教委託していた福島県会津地区をメキシコのグアダルベ宣教会に委託。(6月) ・小林司教の布教番組「心の花束第二集」 4県(青.岩.宮.福)7月～12月まで毎週一回ラジオ放送 ・聖パウロ書店 開店(聖パウロ女子修道会) ・石巻教会 新聖堂落成(11月3日) ・聖ヨゼフ修道女会仙台修道院落成(12月3日)	
1959	(昭和34) 年	
	・第二回仙台教区信徒使徒職大会を、盛岡市四ッ谷教会で開催(七月) ○聖ウルスラ学院高等学校(仙台) 開校 ○聖ドミニコ学院中学校(仙台) 開校 ・日曜を除き毎日5分間、ラジオ番組「心のともしび」の放送開始(6月から～東北放送)	
1960	(昭和35) 年	
	・教皇ヨハネ23世によって土井辰雄大司教が、日本人初の枢機卿に任命さる。 ・志津川、気仙沼、大船渡等チリ地震津波被災地の救援活動を教区をあげて行う。 ○聖ドミニコ学院高等学校(仙台) 開校 ・仙台教区事務所を新築、祝別式 (5月16日)(元寺小路教会構内) ・仙台教区レジオマリエ大会 (白百合学園にて)(5月22日) ・小林有方司教の叙階25周年記念式典を挙行 (白百合学園講堂)(6月29日) ・司教館付属の「司祭の館」が落成 (東仙台、光ヶ丘に)(6月29日)	

	・仙台カトリック鶴ヶ谷墓地管理規則に基づく、墓地管理委員会が発足（11/1 墓地委員会発足：管理規則改定）した。（10/14 に会議）	
	* 「日米安保条約」成立	
	* チリ地震津波(5.23)	
1961	(昭和36) 年	
	・仙台カトリック鶴ヶ谷墓地管理委員会設立(1 月 5 日) (委員長：猪岡修一氏)	
	・第三回仙台教区信徒使徒職大会を福島市飯坂温泉で開催(7.22～7.23)	昼：児山師(2 度目)
	○白百合小学校(仙台) 開校	
	・光ヶ丘スペルマン病院の運営をカナダのド・ラ・クロア修道女会(オタワ)に委託	
1962	(昭和37)年	
	・「 第二バチカン公会議 」開かれる。	
	・小林有方司教、第二ヴァチカン公会議に出席 (10.4～12.13)	
	・聖パウロ会修道会及び教会信徒館の祝別と落成式を挙行 (1 月 25 日)	
	* 内之浦町の東大宇宙観測所で初のロケット打上げ成功	
1963	(昭和38)年	
	・第四回仙台教区信徒使徒職大会 (白百合学園講堂)(7 月 28 日)	元：平塚師→白石へ
	・司教祝聖 25 周年銀祝を迎え土井カルジナル、仙台を御訪問 (8.31～9.3)	元：島田実師 (1963-1967)
	・小林有方司教 ローマへ出発(9 月 23 日) (公会議 9.29 再開の為)	
	・ 教皇ヨハネ23世 → 教皇パウロ6世	
	・仙塩地区カトリック壮年連盟 発足 (1 月 20 日)	
	・カトリック仙塩地区連合婦人会(あけの星会)創立 1963 年 11 月	

仙台司教マリー・ヨゼフ・レミュ閣下の教書

1936年6月29日（昭和11年）、レミュ師が、仙台元寺小路教会聖堂で、司教に祝聖されたが、その祝聖の日に、仙台教区の司祭、修道院、信徒に対して、教書を送られた。宮城県教会「百年のあゆみ」本章（ドミニコ会時代）の結びとして、この教書の全文を転載する。※《 宮城県教会「百年のあゆみ」 P10～P17より転記 》

仙台司教マリー・ヨゼフ・レミュ閣下の教書

神の慈愛と教皇聖座の恩愛により仙台司教たるドミニコ団員マリー・ヨゼフ・レミュ、キリストの愛に於て当教区の司祭、修道会、信徒各位に挨拶の言葉と祝福とを送る。

我が最とも親愛なる兄弟達よ

去る3月17日、聖父ピオ十一世聖下には、その大いなる慈愛に於て私を選び、仙台教区を司牧するの任に当らしめましたが、私はこれを知り只自らの卑賤を省み、その器にあらざることを痛感しました。

従って若し此の選任の裡に神の御攝理の犯すべからざる計画を発見しなかったならば、もとより決して私は司教の栄職と其重責とを受諾するの決心をなし得なかったであります。然るに私は只管神の特別の御助けと聖母マリアの母心の御保護に寄頼り、この餘りにも当然なる我恐怖を黙せしめて今日敢へてあなた方の父となり頭となりました。

私の任命が公にせられてより、我が教区の各方面から私に示された尊敬と従順それから全き協力の精神によって私は再び強められるのを感じました。この重任を受諾するに当り更に私を力づけたのは、当教区に於て既に実現せる使徒的活動の実績を見ることであります。

この布教の成功に就いては、勿論第一は犠牲に於て播かれた種子を発芽せしめ給ふ神に光荣を帰すべきであります。次ぎには尊敬を以て追憶する我が先任者ベルリオス司教閣下の聖徳と熱誠と並びに巴里外国宣教会の感嘆すべき司祭達の功績にその大部分を帰することを憚らないものであります。

此等の宣教師達に日本全カトリックは永久の感謝を捧ぐべきであります。尚又日本に於けるカナダ国ドミニコ団創設者たる誠に尊敬すべきアンドレ・デュマ師の卓見あるそして己を捨てた活動に対し、更に我が親愛なる司祭、修道者、修道女及び信者各位に対してもその成功を帰さねばなりません。

かくして慰め多き過去に強められ将来に希望を托して当教区の司牧に当ることになりました。

司教は司祭職の全部を受けたるにより、聖会の如何なる他の役者にも超えて聖主キリストの使命の継続者であり、その希望の実現者であらねばなりません。されば宣教師たる司教の常に服ようすべきは次のキリストの御言葉であります。『汝等行きて万民に教へよ』（マテオ 28 章 19 節）。然し何を教ふべきでありませうか。それはカトリックの不変の真理と綻であります。

しかるに神の最高の綻は愛の綻であります。愛は他のすべての綻を含み且つそれらの要約であります。『汝の心をつくし、魂をつくし、力をつくし、精神をつくして汝の神たる主を愛し、又汝の近きものを己の如く愛すべし。』（ルカ 10 章 27 節）。

此の御言葉は真理に充ち溢れ、永生を約束しつつ幾世紀を貫いて来たのであります。神の愛、隣人の愛、此等こそすべてのキリスト信者の二つの大いなる義務であります。神と己が近き者を愛する者は凡ての律法を完ふするのであると聖主は仰せられました（マテオ 22 章 37—40 節）。

我が親愛なる兄弟達よ、私はあなた方の司教になって心に願ってやまないのは、あなた方の霊の中にあなた方の周囲にキリストの愛の王国が益々確立し行くを見ることであります。然らば愛徳とは何でありましょうか。

それは神に対する愛に燃ゆる高貴な徳であり、その中に住むところの靈魂を高き喜びと平和を以て充たし、自ら外に流露して隣人に及ぶものであります。聖パウロの次の賛詞をお聞きなさい。『愛は堪忍し、情あり、愛は妬まず、自慢せず、騎らず、非礼を為さず、己の為に謀らず、怒らず、悪を負はせず、不義を喜ばずして真実を喜び、何事をも包み、何事をも信じ、何事をも希望し、何事をもこらふるなり。』（コリント前書 13 章 4 節—7 節。）神学者は愛徳を定義して『神を神自身のために愛し、神を愛するために我等の近きものを我等の如く愛する対神徳なり。』と言って居ります。

親愛なる兄弟達よ、我等は神を神自身のため即ち完全なる愛、友の愛を以て愛さなければなりません。それは己が利益を求めず、又報酬を望まずして却って神の無限の完全性の故に愛するのであります。

『いかんとなれば神は彼自身に於いて愛さるべきである』とアキノの聖トマスも教えて居るのであります。とは言え神に対する此の好意的愛は、神の恵に感激して起る愛を拒むものではありません。

事実恵を以て私共を充たし給う神を、そして又愛に充つる全能によって私共に最大の幸福とそれを得る聖寵とを希望するを得させ給ふ神を、どうして愛さずに居られませうか。尚神に対するこの愛はすべてに先立つ愛でなければなりません。即ち肉親よりも友達よりも神を愛し神に忠実ならん為めに我等の財宝、名誉、生命に超えて神を求めなければなりません。

私共の愛の原因と模範は神自身にあります。聖ヨハネは次の如く教えて居ります。『けだし神は愛にて在す。神の愛の我等に於て顕れしは、神は我等をして是によりて活かしめんために、其御独子を世に遣はし給ひしを以てなり。愛とはこれなり。即ち我等が先に神を愛し給ひしに非ずして、神御自ら先に我等を愛し給ひ、我等の罪のために御子を贖いとして遣し給ひしなり。』（ヨハネ 1 書 4 章 8—10 節）。

神は先に私共を愛し給ふによって、私共はその愛にこたへなければなりません。然らば如何にして神を愛するを知り得るでせうか。それは神の掟を守るに忠実なるによってであります。『其は神に対する愛は、其の掟を守るにあればなり。』（ヨハネ 1 書 5 章 3 節）と聖ヨハネは私共に告げて居ります。

神を愛せしむるもう一つの理由は、神は私共にとって単に友であるのみならず、実に私共の父であるが故であります。聖主キリストに特に愛されたる使徒ヨハネの言葉をお聞きなさい。『我等が神の子等と称せられ、且つ然あらん為に、父の我等に賜ひし愛の如何なるかを見よ。』（ヨハネ 1 書 3 章 1 節）。

かくも愛深き天父の愛子であるあなた方に対して神に対する義務を私は決して強調し過ぎることはないのであります。祈りの義務、ミサに興る義務に忠実でありなさい。それに依ってあなた方は天の御父と交際し得るのであります。神と和解せしむる悔悛の秘蹟、並びに神と一致せしむる聖体の秘蹟に度々近づきなさい。

親愛なる兄弟達よ、若し神を愛するならば、あなた方の近き者をも愛するであります。何故ならば神に対する愛はすべて正しき愛を排除しないからであります。聖主は神を愛する為に汝の近きものを己の如く愛すべしと命じ給ふのであります。

隣人の愛は神の愛の延長であり、この二つの愛は他の一つを棄てては成り立たないのであります。実は此の二つは同じ只一つの愛なのであります。

『人ありて我神を愛し奉ると言ひつつ己が兄弟を憎まば是虚言者なり。けだし眼に見ゆる兄弟を愛せざるものいかでか見え給はざる神を愛し奉ることを得べき。且つ神を愛し奉る人は己が兄弟をも愛すべしとは、是我等が神より賜はれる掟なり。』（ヨハネ 1 書 4 章 20—21 節）。

隣人に対する愛の模範は聖主キリストであります。人類を愛して御託身なされ、その私生活の間聖主キリストは其の母たる聖マリアと其の養父たる聖ヨゼフを深く愛し給ふて孝養をつくされ、公生活に入り給ふや誠に驚嘆すべき愛の教を使徒達及び聖主の御側に集り来る人々にお説きになったのであります。

聖主は総てのものに愛を注いで居られました。病める者、貧しき者、哀れなる者に心よく接して彼等を医し、助け、慰められました。

幸福をもたらし真理を教へんがためには、罪人にも異教人にも交はることをいとひ給はなかつたのであります。聖主を殺害せんと計る人々の中傷とざんぼうの前にも敢へて自らを弁護し給はなかつたのであります。

そして人類に対する愛の最高の実証として十字架に釘づけられて御死去し給ふたのであります。『我等が愛をさとりたるは、キリストが我等のために生命を棄て給ひしを以てなり。』（ヨハネ 1 書 3 章 1 6 節）

親愛なる兄弟達よ、キリストの愛は隣人愛の実行に私共を導くものであります。宣教師たる司祭達よ、第二のキリストたるあなた方は、聖主キリストの心を以て人々を愛しなさい。かくして聖徳の道に彼等を導き得るのであります。誤謬の闇にさまよへる羊を探すために苦痛、疲労、不成功、反対をいとふてはなりません。『善き牧者は其の羊のために生命を棄つ。』

世を離れて修院内に祈る修道士、修道女よ、あなた方の観想と苦業の生活を貧しき靈魂に対する愛を以て貫かれんことを。

社会に活動する修道士、修道女達よ、あなた方の教育事業並に慈善事業を完うせんため、聖き修道院生活に勵みつつそこより愛を汲み取りなさい。

夫たり妻たる人々よ、あなた方は愛徳によってキリスト信者の婚姻の掟に忠実でありなさい。父たり母たる人達よ、子供を愛するならば、つとめてキリスト教的教育を施し、将来の実生活と信仰生活とが調和するやうにおもんばからなければなりません。

若き青年男女達よ、あなた方は信仰を保ち、且つそれをより一層堅固ならしめんと熱誠と真面目な生活とによって両親並びに指導の任にある人々の悦となりなさい。

凡ての信者よ、あなた方はキリスト教的精神を以て天皇陛下に忠節をつくし、皇国を愛しなさい。尚又市民の義務を忠実に果し、統治者に対して尊敬を拂ひ、その正しき法律に従ひなさい。

愛徳の第一の現はれは熱誠であります。親愛なる兄弟達よ、肉身的或ひは精神的慈善事業に喜捨しなさい。貧しき者には施し、病人を見舞ひ、うれふる人を慰めなさい。『我等もまた兄弟のために生命を棄つべし。此の世の財産をもてるもの、兄弟のとぼしきを見つつ之に己があわれみの心を閉じるならば、いかでか神に対する愛の之にとどまることを得んや。我等は言葉と舌とを以て愛すべからず、行と真とを以てすべし。』（ヨハネ 1 書 3 章 1 6 — 1 8 節）。

尚又布教のために熱心でありなさい。思ふに今まで信者の宝をあまりにも秘蔵しすぎた嫌ひがあります。親愛なる兄弟達よ、若し愛がありますならば、他人に神を知らしめ、信仰を伝へることを熱望するでありませう。

司祭の助け手となりなさい。然し布教活動に於ては常に司祭の指導に従ひなさい。かくすれば教皇陛下の聖旨の通りアクシオ・カトリカ（カトリック運動）に参興し得るでありませう。

愛徳の他の善果は平和であります。一致と融和の内に生活しなさい。御互に過失を赦し、相忍び、他人の名誉を尊びなさい。また周囲の人々のいたらぬ点は愛徳によってこれを寛容し、忘れることを心掛けなさい。

信者達よ、あなた方は司祭に対して愛を持たねばなりません。司祭があなた方のために沸ふ犠牲を考へて見なさい。司祭を愛するならば、司祭を難ずるが如き事なく、却って敬ひ、従ひ、護るであります。司祭もまたもとより不完全なる人間であります。然し司祭はあなた方にとって神の代理者であることを忘れてはなりません。司祭と親しみなさい。あなた方の苦業と不幸とを打開けなさい。単に直接信仰に関する問題のみならず、間接にそれに触れる問題までも相談しなさい。

親愛なる兄弟達よ、私共の信仰の幸福を未だ知らざる人々に愛に於ける一致の美しさを示しなさい。もしかくなし得れば、人々は初代教会の信者になせる如く、あなた方を見て必ずや次の如く言ふであります。

『如何に彼等が相愛して兄弟の如く一致するかを見よ。』と。是れこそ私共の聖なる宗教に人々の心を引きつける有力なる布教であります。

親愛なる兄弟達よ、眼を我等の模範聖主キリストに注ぎ、神と人とに対する愛徳の花を美はしく咲かしむるよう共に努力いたしませう。

『キリストの愛の中に。』是れは私の標語であります。此の理想を実現せんがためには第一に神の恩寵により頼まねばなりません。次には当教区の凡ての司祭、修道者、信者の熱烈なる愛に待たなければなりません。『愛はいつも絶ゆることなし』（コリント前書 13 章 8 節）とは聖パウロの教へる所であります。愛徳は天国の幸福の尺度となりませう。

以上の理由によって私は神の聖名を呼びて次の掟を定め、これを命ずるものであります。

第一、此の教書を受領後最初の日曜日に凡ての聖堂並びに附属聖堂に於て『ヴェニ・クレアトル』（聖霊来り給へ、— 聖霊の降臨を望む祈）と『スプ・トウム』（天主の聖母の保護によりすがり奉る — 終業後の祈）及び其等に伴ふ小節句と祈願を歌ひ或は称ふべし。

第二、新令の発せられるまで、当教区に於ける『オラツイヨ・インベラータ』は『デ・スピリト・サンクト』たるべし。

第三、我が先任者達の賢明と熱誠とによって興えられ今日当教区に行はるる凡ての制律はそのままこれを認む。

1936年6月29日

仙台にて 仙台司教マリー・ヨゼフ・レミユ

右佛語原文を邦譯す 公教司祭 海老弥六

ザベリオの聖腕を迎えておこなわれた『ザベリオ渡来四百年祭』に際して、マッカーサー元帥は、次のような特別声明を発表した。

「聖フランシスコ・サヴィエルの来日四百年祭は、人類精神文化の道程における一つの大きな宗教的里程標である。聖サヴィエルの渡日が特に重大な意義をもつ理由は、ただそれが日本人の最初のキリスト教導入であったというのみに止らない。更に加えてこれが宗教の根本をなす考え方をひろく人類すべてに及ばそうという遠大な目標をもった一大伝道運動の端緒となった点にも重大な意義が存するのである。

宗教の根本をなす考え方とはすなわち邪を捨てて正を、冷酷を捨ててあわれみを、利己を捨てて寛容を、我意を捨てて公正を、それぞれとり、身も心も清く保ち、不遇に屈せず、成功におごらぬという考え方であり、そのすべてはキリストが山上の垂訓で説いたあの美しい永遠な、しかも何の飾り気もない言葉にあますところなく現わされている。

伝道という仕事の基礎をなすものは、人間のもつあらゆる特性のうちもっとも崇高なもの、すなわち犠牲の精神である。この特性が現われる時こそ、人間の心の像は、神の姿にもっとも近く描き出されるのである。

しかも魂に一点の汚れもないこの伝道師聖サヴィエルは、それまでの世界が知り得た最大の思想を極めて謙譲な心持ちをもち極東にもたらしたのであった。彼がもたらした思想は、やがてこの地においてすくすくと成長し、美しい花を咲かせるであろうことを私は真心こめて信ずるものである。なぜならばこの思想の具現するものは、健全なものの考え方という永久不滅のものだからである。

世界のあらゆる人が、心から望み、また聖フランシスコ・サヴィエルが、何よりも固く心に抱いていたものは、あらゆる知識を超越する真の平和であった。もし人類がこの平和をついに見出す時があるとするならば、それはすべての人が、この健全な考え方を、いな、この思想を各人の心に受入れる時であるに相違ない」

このように、聖腕を迎えてのザベリオ四百年祭は、当時日本の最高権力者であったマッカーサー元帥のお墨付（声明）が出たこともあって、全国のあらゆるマスコミ機関が大きくとりあげた。

《 宮城県カトリック教会「百年のあゆみ」P 130～131より転記 》

ピソネット師の北仙台教会に於ける

最後のミサの説教（昭和45年3月8日）

私は此の教会で20年間このかた皆さんと共にお務めを果して参りました。今そのお役目も終ろうとしております。今日こそ本当にこの忘れられない聖ドミニコ教会の主任司祭としての最後の日です。

聖体の祭儀、聖言の祭儀を皆さんと一つになって行って参りました。

私は自分の年のこと健康状態をよく考えました結果、重すぎるこのお役目を辞退しなければならない時期が来たと考えるようになりました。

イエズス様が弟子達と別れる前に彼等をなぐさめて次のようにおおせてなりました、「私が去って行くのはあなたがたにとってもよいことです。私はあなたがたをみなしごととしては残して行きません。聖霊をつかわしましょう」と。

私の場合イエズス様のように聖霊を送りましょうなどとお約束することはできません。けれども皆さんを今後とも愛徳、善への道、またまことの道に導いて下さる立派な司祭がたしかに送られると思います。

私の後にいらっしゃる神父様は、この教会には模範的な信者の家族、熱心な信者方、立派な仕事をやっていらっしゃる二つの修道会などをごらんになるでしょう。また、此の教会の中には美しい祭式に対して強い関心があり、一致の精神に満ち、お互いの尊敬にあふれた雰囲気包まれていることを認められるでしょう。特に日曜日には、皆さんと一緒に祈りをし聖歌を歌い同じ祭壇の下で聖体を拝領し大きな喜びと深い慰めを私と同じように味われることと思います。

私の遺産の分け前はなんとすばらしいのだろうときっと心の中で繰返えされることでしょう。

私共誰もが通り過ぎやがて消えて行きます。けれども救いのみわざは決して中断されることはございません。世の終りまでキリスト様は人々を救い御自分のブドー畑で働く人がいるのだということもちゃんと分っておいでです。

神の僕、教会の僕は自分について過大評価はしません。自分はどうしてもなくてはならぬものだと考えてもいませんし、自分のことよりも名誉ある奉仕をするということに関心を持っているものです。神の僕は、イエズス様の意味の深いみことばを決して忘れません。それは「命ぜられたことを完全に果したと思っても、私共は無益な僕でやらなければならないことをやっただけに過ぎないと言いなさい」と。

メシヤのところまで案内してくれた婦人に向ってサマリア人達は次のように言いました。「私たちが信じるようになったのは、あなた

の言葉によったのではなく、キリスト様のみ言葉を耳にし全く救主御自身であると分ったからです」と。

この言葉は自分に洗礼を授けて下さった司祭にも向られるのではないのでしょうか。何故かと申しますと、世の救いのために十字架につけられましたのは司祭ではなくキリスト様だからです。

この最後のお別れの説教にあたって、ただ今ここにいらっしゃる方々、また今お出でになられなかった方々、皆さんに心からなる最後のお願いを致しておきましょう。

神様と教会に忠実でありなさい、信仰を貴重な宝のように大切にしてください。この教区の神の国の発展のためにお働き下さい。

今しがた、3人の方々の受洗がございました。藤村さん、及川りゅうすけさん、只野みつ子さんでした。心からお喜び申し上げます。

私にとってこの最後の洗礼式は、生涯忘れられないなつかしい思い出となることでしょう。

私は、思い出の多いこの北仙台教会にもうこれ以上つづけることは出来ません。

今まで私が皆さんにつまづきを与えたり、御迷惑をおかけしたりしたことがもしございましたら、お忘れ下さるようお願い致します。

ビソネット師はまた、聖堂建立という大業の傍ら道路を隔てた向い側に幼稚園をつくって、これを聖ドミニコ女子修道会に委譲した。

師は、その後、この教会を拠点に布教活動をおこなった結果、教会開設当時、10数名にすぎなかった信徒が、1970年（昭和45年）までに約三百人に増加した。

1970年3月（昭和45年）、師は、自分が苦心して建設した北仙台教会主任司祭の職を辞し、なつかしい信徒と仙台に別れを告げて仙台を去って東京へ行き、東京の聖ドミニコ女子修道院付司祭として、余生をおくっている。

《 宮城県カトリック教会「百年のあゆみ」P249～251より転記 》



仙台教区設立 75 周年記念 ロゴス公開講演会

池田 まり講演集
「仙台教区 75 年の歩み」を語る

講 師 池田 まり（元寺小路教会）
Sr 桜井 高子（聖ドミニコ女子修道会）
 {聖ドミニコ女子修道会に関する事項}
山田 務（豊屋丁教会）
 {豊屋丁教会に関する事項}

著 者 池田 まり（元寺小路教会）
山田 務（豊屋丁教会）

編 集 山田 務

発行者 仙台ロゴス研究所

発 行 2012 年 12 月 7 日



正誤表

ページ	誤	正
8ページ上から4行目	最後の伝道師はピソンネット神父さまの伝道師・齋藤重	最後の伝道師はビソンネット神父さまの伝道師・齋藤重
9ページ下から6行目	添をうけ、その後に祭主のマレラ教皇使節は、ディオンヌ師、デフレン師、ピソンネ	添をうけ、その後に祭主のマレラ教皇使節は、ディオンヌ師、デフレン師、ビソンネ
18ページ上から3行目	仮遇から住むべき土地建物を探し求めましたが、全て徒労に終わりましたが、ついに	仮寓から住むべき土地建物を探し求めましたが、全て徒労に終わりましたが、ついに
22ページ上から10行目	ピソンネット師は多大の私財を投じて立派な設備と園舎を新築しました。	ビソンネット師は多大の私財を投じて立派な設備と園舎を新築しました。
39ページ15行目	ウルスラの清水道子先生も、まだ修道院に入る前でしたが、ピソンネット神父様の	ウルスラの清水道子先生も、まだ修道院に入る前でしたが、ビソンネット神父様の
附 録19ページのピソンネット師の説教の1行目	ピソネット師の北仙台教会に於ける	ビソンネット師の北仙台教会に於ける